

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン スギヤマジョガクエン 学校法人 椙山女学園							
フリガナ大学の名称	スギヤマジョガクエンダイガク 椙山女学園大学 (Sugiyama Jogakuen University)							
大学本部の位置	愛知県名古屋市長が丘元町17番3号							
大学の目的	本学は、教育基本法と学校教育法に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、深く専門の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人間を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的	人間共生学科は、人間の多様性及び共生社会における包摂性に関する専門の学術を教授研究し、多様な共生社会に関する今日的課題に対して意欲的かつ実践的に取り組む態度及び問題解決能力を培い、多様な他者との共生に向け価値を創造し行動する能力を兼ね備えた人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人間関係学部 人間共生学科	4	90	3年次 2	364	学士 (人間共生学)	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次	愛知県日進市 竹の山3丁目2005番地
計		90	3年次 2	364				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>外国語学部</p> <p>英語英米学科 (115)</p> <p>(3年次編入学定員) (10)</p> <p>国際教養学科 (85)</p> <p>(3年次編入学定員) (10) (令和5年4月届出予定)</p> <p>情報社会学部</p> <p>情報デザイン学科 (100)</p> <p>(3年次編入学定員) (2)</p> <p>現代社会学科 (120)</p> <p>(3年次編入学定員) (2) (令和5年3月設置認可申請中)</p> <p>現代マネジメント学部</p> <p>現代マネジメント学科〔定員増〕 (10) (令和6年4月)</p> <p>看護学部</p> <p>看護学科〔定員増〕 (10) (令和6年4月)</p> <p>国際コミュニケーション学部(廃止)</p> <p>国際言語コミュニケーション学科(廃止) (△115)</p> <p>(3年次編入学定員) (△10)</p> <p>表現文化学科(廃止) (△95)</p> <p>(3年次編入学定員) (△10)</p> <p>※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>人間関係学部</p> <p>人間関係学科(廃止) (△100)</p> <p>(3年次編入学定員) (△2)</p> <p>※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>文化情報学部(廃止)</p> <p>文化情報学科(廃止) (△120)</p> <p>(3年次編入学定員) (△2)</p> <p>メディア情報学科(廃止) (△100)</p> <p>(3年次編入学定員) (△2)</p> <p>※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p>							

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	講義	演習	実験・実習	計						
	人間共生学科	139 科目	25 科目	4科目	168科目	126単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		令和5年4月 届出予定 令和5年4月 届出予定 令和5年3月 設置認可申請中 令和5年3月 設置認可申請中 学長は、管理栄養学科に含める。
	新設	外国語学部 英語英米学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
		外国語学部 国際教養学科	4 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (11)	0 (0)	147 (144)	
		人間関係学部 人間共生学科	6 (7)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	12 (13)	0 (0)	122 (121)	
		情報社会学部 情報デザイン学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	126 (126)	
		情報社会学部 現代社会学科	7 (10)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (15)	0 (0)	120 (117)	
		計	29 (36)	18 (18)	11 (11)	0 (0)	58 (65)	0 (0)	— (—)	
	既設	生活科学部 管理栄養学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
		生活科学部 生活環境デザイン学科	8 (8)	5 (5)	3 (3)	1 (2)	17 (18)	2 (2)	121 (121)	
		人間関係学部 心理学科	9 (10)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	15 (16)	0 (0)	77 (77)	
		現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	12 (12)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	77 (77)	
	教育学部 子ども発達学科	21 (21)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	99 (99)		
	看護学部 看護学科	13 (13)	13 (13)	1 (1)	5 (5)	32 (32)	14 (14)	49 (49)		
	計	69 (71)	46 (46)	11 (11)	9 (10)	135 (138)	24 (24)	— (—)		
	合計	98 (107)	64 (64)	22 (22)	9 (10)	193 (203)	24 (24)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		67 (67)	人	33 (33)	人	100 (100)	人		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		3 (3)		2 (2)		5 (5)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		70 (70)		35 (35)		105 (105)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	校舎敷地	65,407.76 m ²	0 m ²	0 m ²	65,407.76 m ²					
	運動場用地	44,454.00 m ²	0 m ²	0 m ²	44,454.00 m ²					
	小計	109,861.76 m ²	0 m ²	0 m ²	109,861.76 m ²					
	その他	8,177.24 m ²	0 m ²	0 m ²	8,177.24 m ²					
合計	118,039.00 m ²	0 m ²	0 m ²	118,039.00 m ²						
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計						
	73,386.62 m ² (73,386.62 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	73,386.62 m ² (73,386.62 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	14室	15室	3室	1室 (補助職員1人)	0室 (補助職員0人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数						
	人間関係学部人間共生学科			13 室						

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、 大学全体の数	
	人間関係学部 人間共生学科	465,700 [98,600] (460,689 [97,584])	2,640 [895] (2,598 [879])	40 [34] (32 [29])	21,000 (20,548)	6,560 (6,560)	287 (273)		
	計	465,700 [98,600] (460,689 [97,584])	2,640 [895] (2,598 [879])	40 [34] (32 [29])	21,000 (20,548)	6,560 (6,560)	287 (273)		
図書館		面積 4,071.40 m ²		閲覧座席数 604席	収納可能冊数 403,489冊			大学全体	
体育館		面積 5,052.14 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート6面、ゴルフ練習場20打席、 テニスコート・フットサル共用コート1面					
経費の 見及び 維持 方法 の 概 要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費（運用コ スト含む）を含 む。 届出学科のみ
	教員1人当り研究費等		579千円	579千円	579千円	579千円			
	共同研究費等		1,071千円	1,071千円	1,071千円	1,071千円			
	図書購入費	3,386千円	3,386千円	3,386千円	3,386千円	3,386千円			
	設備購入費	14,927千円	14,927千円	14,927千円	14,927千円	14,927千円			
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,287千円	1,087千円	1,087千円	1,087千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		入学検定料収入、特別寄付金収入、国庫補助金収入、資産運用収入、雑収入等							
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	椋山女学園大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	生活科学部	年	人	年次 人	人		1.05		愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
	管理栄養学科	4	120	— —	480	学士 (生活科学)	1.05	平成19年度	
	生活環境デザイン学科	4	137	2年次 2 3年次 2	558	学士 (生活科学)	1.05	平成15年度	
	国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学	4	115	3年次 10	480	学士 (国際コミュニケー ション学)	0.90 0.94	平成15年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
	表現文化学科	4	95	3年次 10	400	学士 (国際コミュニケー ション学)	0.86	平成15年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
	人間関係学部 人間関係学科	4	100	3年次 2	404	学士 (人間関係学)	0.96 0.91	昭和62年度	愛知県 日進市竹の山3丁目 2005番地
	心理学科	4	110	2年次 2 3年次 3	452	学士 (人間関係学)	1.00	平成14年度	
	文化情報学部 文化情報学科	4	120	3年次 2	484	学士 (文化情報学)	1.04 1.02	平成12年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
メディア情報学科	4	100	3年次 2	404	学士 (メディア情報学)	1.07	平成23年度		
								令和6年度4月1年 次学生募集停止 令和8年度4月3年 次学生募集停止 令和6年度4月1年 次学生募集停止 令和8年度4月3年 次学生募集停止 令和6年度4月1年 次学生募集停止 令和8年度4月3年 次学生募集停止 令和6年度4月1年 次学生募集停止 令和8年度4月3年 次学生募集停止	

現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	4	180	—	720	学士 (現代マネジメント)	1.07	平成15年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
教育学部 子ども発達学科	4	170	2年次 2 3年次 3	692	学士 (教育学)	1.00	平成19年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
看護学部 看護学科	4	100	— —	400	学士 (看護学)	1.08	平成22年度	愛知県 名古屋市千種区 星が丘元町17番3号
		1,347	2年次 6 3年次 34	5,474		1.01		
附属施設の概要	<p>名称：椋山女学園高等学校・椋山女学園中学校 目的：実習施設 所在地：愛知県名古屋市千種区山添町2丁目2番地 設置年月：昭23.3.31 規模等：校地 27,362.00㎡ 校舎 23,742.08㎡</p> <p>名称：椋山女学園大学附属小学校 目的：実習施設 所在地：愛知県名古屋市千種区山添町2丁目2番地 設置年月：昭27.4.1 規模等：校地 6,550.00㎡ 校舎 6,218.91㎡</p> <p>名称：椋山女学園大学附属幼稚園・椋山女学園大学附属保育園 目的：実習施設 所在地：愛知県名古屋市千種区山添町2丁目2番地 設置年月：幼稚園 昭17.4.1/保育園 平27.4.1 規模等：校地 3,486.00㎡ 校舎 2201.56㎡</p> <p>名称：椋山女学園大学附属椋山こども園 目的：実習施設 所在地：愛知県名古屋市名東区にじが丘1丁目12番地の4 設置年月：平31.4.1 規模等：校地 2,394.00㎡ 校舎 946.00㎡</p>							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人椋山女学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
椋山女学園大学				椋山女学園大学				
生活科学部				生活科学部				
管理栄養学科	120	—	480	管理栄養学科	120	—	480	
生活環境デザイン学科	137	2年次 2 3年次 2	558	生活環境デザイン学科	137	2年次 2 3年次 2	558	
国際コミュニケーション学部				国際コミュニケーション学部				
国際言語コミュニケーション学科	115	3年次 10	480	国際言語コミュニケーション学科	0	3年次 0	0	令和6年4月 1年次学生募集停止 令和8年4月 3年次学生募集停止
表現文化学科	95	3年次 10	400	表現文化学科	0	3年次 0	0	学部設置(届出)
人間関係学部				外国語学部				学部設置(届出)
人間関係学科	100	3年次 2	404	英語英米学科	115	3年次 10	480	学部設置(届出)
心理学科	110	2年次 2 3年次 3	452	国際教養学科	85	3年次 10	360	学部設置(届出)
文化情報学部				人間関係学部				令和6年4月 1年次学生募集停止 令和8年4月 3年次学生募集停止
文化情報学科	120	3年次 2	484	人間関係学科	0	3年次 0	0	
メディア情報学科	100	3年次 2	404	心理学科	110	2年次 2 3年次 3	452	
現代マネジメント学部				人間共生学科	90	3年次 2	364	学部設置(届出)
現代マネジメント学科	180	—	720	文化情報学部				
教育学部				文化情報学科	0	3年次 0	0	令和6年4月 1年次学生募集停止 令和8年4月 3年次学生募集停止
子ども発達学科	170	2年次 2 3年次 3	692	メディア情報学科	0	3年次 0	0	学部設置(認可申請)
看護学部				情報社会学部				学部設置(認可申請)
看護学科	100	—	400	情報デザイン学科	100	3年次 2	404	学部設置(認可申請)
大学計	1,347	2年次 6 3年次 34	5,474	現代社会学部	120	3年次 2	484	学部設置(認可申請)
椋山女学園大学大学院				現代マネジメント学部				定員変更(10)
生活科学研究科				現代マネジメント学科	190	—	760	
人間生活科学専攻 (博士後期課程)	3	—	9	教育学部				
食品栄養科学専攻 (修士課程)	6	—	12	子ども発達学科	170	2年次 2 3年次 3	692	
生活環境学専攻 (修士課程)	6	—	12	看護学部				
人間関係学研究科				看護学科	110	—	440	定員変更(10)
人間関係学専攻 (修士課程)	20	—	40	大学計	1,347	2年次 6 3年次 34	5,474	
現代マネジメント研究科				椋山女学園大学大学院				
現代マネジメント専攻 (修士課程)	5	—	10	生活科学研究科				
教育学研究科				人間生活科学専攻 (博士後期課程)	3	—	9	
教育学専攻 (修士課程)	6	—	12	食品栄養科学専攻 (修士課程)	6	—	12	
大学院計	46		95	生活環境学専攻 (修士課程)	6	—	12	
				人間関係学研究科				
				人間関係学専攻 (修士課程)	20	—	40	
				現代マネジメント研究科				
				現代マネジメント専攻 (修士課程)	5	—	10	
				教育学研究科				
				教育学専攻 (修士課程)	6	—	12	
				大学院計	46		95	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設了学部に等しい学年進行状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
人間関係学部 人間関係学科 (廃止)	学士 (人間関係学)	文学/社会学・社会学・社会学関係	人間関係学部人間共生学科	11	5	人間関係学部 人間共生学科	学士 (人間共生学)	文学/社会学・社会学・社会学関係	人間関係学部人間関係学科	11	5
			情報社会学部現代社会学科	3	2				新規採用	1	1
			人間関係学部心理学科	1	0						
			退職	1	1						
			その他	1	1						
			計	17	9				計	12	6
人間関係学部 心理学科	学士 (人間関係学)	文学/社会学・社会学・社会学関係	人間関係学部心理学科	15	10	人間関係学部 心理学科	学士 (心理学)	文学/社会学・社会学・社会学関係	人間関係学部心理学科	15	10
									人間関係学部人間関係学科	1	0
			計	15	10				計	16	10
国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科 (廃止)	学士 (国際コミュニケーション学)	文学関係	外国語学部英語英米学科	11	5	外国語学部 英語英米学科	学士 (英語英米)	文学関係	国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科	11	5
			外国語学部国際教養学科	1	0				国際コミュニケーション学部 表現文化学科	2	2
			情報社会学部現代社会学科	1	0				新規採用	2	0
			退職	1	1						
			その他	1	1						
			計	15	7				計	15	7
国際コミュニケーション学部 表現文化学科 (廃止)	学士 (国際コミュニケーション学)	文学関係	外国語学部国際教養学科	2	1	外国語学部 国際教養学科	学士 (国際教養)	文学関係	国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科	1	0
			外国語学部英語英米学科	2	2				国際コミュニケーション学部 表現文化学科	2	1
			情報社会学部現代社会学科	1	1				文化情報学部文化情報学科	2	1
			教育学部子ども発達学科	3	1				文化情報学部メディア情報学科	1	1
			退職	1	1				新規採用	2	1
			その他	2	2						
			計	11	8				計	8	4
			文化情報学部 文化情報学科 (廃止)	学士 (文化情報学)	文学/社会学・社会学・社会学関係				情報社会学部情報デザイン学科	7	3
情報社会学部現代社会学科	3	2				文化情報学部メディア情報学科	4	2			
外国語学部国際教養学科	2	1				新規採用	1	0			
教育学部子ども発達学科	1	1									
その他	1	1									
計	14	8				計	12	5			
文化情報学部 メディア情報学科 (廃止)	学士 (メディア情報学)	社会学・社会学・社会学関係	情報社会学部情報デザイン学科	4	2	情報社会学部 現代社会学科	学士 (社会学)	社会学・社会学・社会学関係	文化情報学部文化情報学科	3	2
			情報社会学部現代社会学科	3	2				文化情報学部メディア情報学科	3	2
			外国語学部国際教養学科	1	1				国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科	1	0
			現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	1	0				国際コミュニケーション学部 表現文化学科	1	1
			その他	2	2				人間関係学部人間関係学科	3	2
									新規採用	1	0
			計	11	7				計	12	7

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和62年4月	人間関係学部 人間関係学科 心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻設置	文学/社会学・社会福祉学	設置認可(学部)
平成5年4月	人間関係学部 人間関係学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成9年4月	人間関係学部 人間関係学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成10年4月	人間関係学部 人間関係学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成14年4月	人間関係学部 臨床心理学科設置	文学/社会学・社会福祉学	設置認可(学科)
平成15年4月	人間関係学部 人間関係学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成18年4月	人間関係学部 人間関係学科、臨床心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成19年4月	人間関係学部 人間関係学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成19年4月	人間関係学部 臨床心理学科を心理学科に名称変更	文学/社会学・社会福祉学	学科名称変更
平成21年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成23年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成24年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成25年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成27年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成29年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成30年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
平成31年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
令和3年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
令和4年4月	人間関係学部 人間関係学科、心理学科のカリキュラム変更	文学/社会学・社会福祉学	学則変更
令和6年4月	人間関係学部 人間共生学科設置	文学/社会学・社会福祉学	設置届出(学科)
令和6年4月	人間関係学部 人間関係学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)

教育課程等の概要															
(人間関係学部人間共生学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	人間論	1前	2			○			2		1			兼6	オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			2	0	1	0	0	兼6	—
教養教育科目	領域1 思想と表現	哲学	1後	2		○								兼1	
		文学	1前後	2		○								兼2	
		芸術	1前	2		○								兼2	
		心理	1後	2		○								兼2	
		言語	1前後	2		○								兼2	
		人類学	1前	2		○								兼2	
	領域2 歴史と社会	歴史	1前	2		○								兼2	
		法	1後	2		○								兼2	
		日本国憲法	1前	2		○								兼1	
		経済	1前	2		○								兼1	
		社会	1前	2		○								兼2	
		地理	1前	2		○								兼2	
	領域3 科学技術	物理の世界	1前後	2		○								兼2	
		化学の世界	1後	2		○								兼1	
		環境の科学	1前	2		○								兼1	
		地球の科学	1前後	2		○								兼2	
		生命の科学	1前後	2		○								兼1	
	領域4 数理と情報	数理の世界	1前	2		○								兼1	
		統計の世界	1前後	2		○								兼2	
		コンピュータと情報Ⅰ	1前	2		○								兼3	
		コンピュータと情報Ⅱ	1後	2		○								兼2	
	領域5 言語とコミュニケーション	外国語（英語A）	1前	1			○					1			兼4
		外国語（英語B）	1後	1			○					1			兼4
		外国語（英語C）	2前	1			○					1			兼4
		外国語（英語D）	2後	1			○					1			兼4
		外国語（ドイツ語Ⅰ）	1前	1			○								兼2
		外国語（ドイツ語Ⅱ）	1後	1			○								兼2
		外国語（フランス語Ⅰ）	1前	1			○								兼1
外国語（フランス語Ⅱ）		1後	1			○								兼1	
外国語（中国語Ⅰ）		1前	1			○								兼2	
外国語（中国語Ⅱ）		1後	1			○								兼2	
外国語（ポルトガル語Ⅰ）		1前	1			○								兼1	
外国語（ポルトガル語Ⅱ）		1後	1			○								兼1	
外国語（スペイン語Ⅰ）		1前	1			○								兼1	
外国語（スペイン語Ⅱ）		1後	1			○								兼1	
領域6 スポーツと健康	ファーストイヤーゼミ	1前	1			○			5	2	2				
	ジェンダー論入門	1前後		2		○					1			兼1	
	生活と防災	1前		2		○								兼13	
	思考のスキル入門	1前後		2		○								兼2	
領域7 トータルデザイン	A I ・データと社会	1後		2		○								兼8	
	ワークキャリアデザイン	1前後		2		○								兼1	
	ビジネススキル入門	2前後		1		○								兼3	
	健康とスポーツの理論	1前		2		○								兼8	
領域8 オムニバス	健康科学	1前		1		○								兼1	
	スポーツ実習A	1前後	1					○	1					兼1	
	スポーツ実習B	2前後	1					○	1					兼1	
	メディアオムニバス													兼8	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	キャリア形成実習Ⅰ	2前後		1				○							兼1
	キャリア形成実習Ⅱ	2前後		2				○							兼1
	小計 (51科目)	—	9	71	0			—	5	2	2	0	0	兼80	—
学部共通	人間関係論A	1前	2			○			1					兼1	オムニバス
	人間関係論B	1後	2			○				1				兼1	オムニバス
	小計 (2科目)	—	4	0	0			—	1	0	1	0	0	兼2	—
学科共通科目	人間共生の諸相A	1後	2			○			1	1	1				オムニバス
	人間共生の諸相B	2前	2			○			2	1					オムニバス
	基礎演習A	2前	1				○		3	2	2			兼1	
	基礎演習B	2後	1				○		3	2	2			兼1	
	小計 (4科目)	—	6	0	0			—	4	2	2	0	0	兼1	—
ジェンダー・女性学 科目群	女性学・男性学	1後		2		○					1				
	ライフスタイル論	1後		2		○									兼1
	女性とライフステージ	2前		2		○									兼1
	女性と社会A	1後		2		○									兼1
	女性と社会B	2前		2		○									兼1
	女性政策論	3前		2		○					1				
	家族社会論	2前		2		○					1				
	女性と職業生活A	2後		2		○			1						
	女性と職業生活B	3前		2		○			1						
	産業と女性労働	2後		2		○			1						
	組織と人間	2前		2		○			1						
	ジェンダー・セクシュアリティ論A	1前		2		○			1						
	ジェンダー・セクシュアリティ論B	1後		2		○			1						
	教育とジェンダー	2後		2		○			1						
	福祉とジェンダー	2前		2		○					1				
	法とジェンダー	2後		2		○									兼1
	政治とジェンダー	2前		2		○					1				
	国際社会とジェンダー	2前		2		○					1				
	スポーツとジェンダー	1前		2		○			1						
女性と生涯スポーツ	2後		2		○			1							
文化メディアとジェンダー	2前		2		○									兼1	
社会福祉学 科目群	社会福祉論A	1前		2		○					1				
	社会福祉論B	1後		2		○					1				
	福祉コミュニティ論	2後		2		○									兼1
	社会保障論A	2前		2		○									兼1
	社会保障論B	2後		2		○									兼1
	貧困に対する支援	2前		2		○									兼1
	福祉サービスの組織と経営	2後		2		○			1						兼1
	子ども・家庭福祉論	1前		2		○			1						
	高齢者福祉論	1前		2		○									兼1
	障害者福祉論	2前		2		○			1						
	ソーシャルワーク論Ⅰ	1前		2		○						1			
	ソーシャルワーク論Ⅱ	1後		2		○						1			
	ソーシャルワークの基礎	1後		2		○			1						
	ソーシャルワークⅠ	2前		2		○			1						
	ソーシャルワークⅡ	2後		2		○			1						
	ソーシャルワークⅢ	3前		2		○			1						
	権利擁護を支える法制度	3前		2		○									兼1
司法福祉論	3前		2		○			1							
保健医療	1前		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
専門教育科目	人間学 科目群	人間形成の歴史	1後	2	0	0	0	0	1											
		現代子育て論	1後	2	0	0	0	0											兼1	
		青少年論	2前	2	0	0	0	0		1										
		現代教育論	2後	2	0	0	0	0		1									兼1	
		学校と社会	3前	2	0	0	0	0											兼1	
		非行問題	3前	2	0	0	0	0			1									
		生涯学習論	2前	2	0	0	0	0											兼1	
		身体・スポーツ文化論	2前	2	0	0	0	0		1										
		地域社会論	2前	2	0	0	0	0												兼1
		社会学概論	1後	2	0	0	0	0												兼1
		文化人類学	1前	2	0	0	0	0			1									
		エスニシティ論	1後	2	0	0	0	0			1									
		人間の歴史	2後	2	0	0	0	0												兼1
		人間環境論	2前	2	0	0	0	0												兼1
		地球環境と人間	3後	2	0	0	0	0												兼1
		フィールドワーク論	2前	2	0	0	0	0			1									
		社会調査論	2後	2	0	0	0	0			1									
小計 (57科目)			0	114	0	—			6	2	3	1	0					兼17	—	
学科展開科目	生命科学と人間	生命科学と人間	2前	2	0	0	0	0											兼1	
		生命倫理学	1前	2	0	0	0	0												兼1
		臨床哲学	2後	2	0	0	0	0												兼1
		進化心理学	2後	2	0	0	0	0												兼1
		心理学総論	1後	2	0	0	0	0												兼1
		乳幼児・児童心理学	1後	2	0	0	0	0												兼1
		遊びの心理学	2後	2	0	0	0	0												兼1
		乳幼児保育論	2前	2	0	0	0	0												兼1
		子どもの認知・行動	2前	2	0	0	0	0												兼1
		親子関係の心理学	2前	2	0	0	0	0												兼1
		発達心理学	1後	2	0	0	0	0												兼1
		青年心理学	2前	2	0	0	0	0												兼1
		成人心理学	2前	2	0	0	0	0												兼1
		人体の構造と機能及び疾病	1前	2	0	0	0	0												兼1
		健康・医療心理学	2後	2	0	0	0	0												兼1
		教育・学校心理学	2前	2	0	0	0	0												兼1
		福祉心理学	2後	2	0	0	0	0												兼1
		障害者・障害児心理学	2後	2	0	0	0	0												兼1
		知覚・認知心理学	1前	2	0	0	0	0												兼1
		日常認知の心理学	2後	2	0	0	0	0												兼1
学習・言語心理学	1後	2	0	0	0	0												兼1		
産業・組織心理学	2後	2	0	0	0	0												兼1		
社会・集団・家族心理学A (社会・集団心理学)	1後	2	0	0	0	0												兼1		
社会・集団・家族心理学B (家族心理学)	2後	2	0	0	0	0												兼1		
対人関係の心理学	2前	2	0	0	0	0												兼1		
小計 (25科目)		—	0	50	0	—			0	0	0	0	0					兼15	—	
		情報科学と人間A	2後	2	0	0	0	0											兼1	
		情報科学と人間B	2後	2	0	0	0	0											兼1	
		日本史A	1前	2	0	0	0	0											兼1	
		日本史B	1後	2	0	0	0	0											兼1	
		外国史A	1前	2	0	0	0	0											兼1	
		外国史B	1後	2	0	0	0	0											兼1	
		地理学概論	1前	2	0	0	0	0											兼1	
		地誌	1後	2	0	0	0	0											兼1	
		法律学 (国際法を含む。)	1後	2	0	0	0	0												兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
関連科目	教職論	1前		2		○			1								
	生徒指導と進路指導	1後		2		○										兼1	
	カリキュラム論	2後		2		○										兼1	
	教育の方法と技術 (情報通信技術の活用を含む。)	2後		2		○										兼1	
	教育相談	3後		2		○										兼1	
	発達と学習	1後		2		○										兼1	
	博物館概論	1前		2		○										兼1	
	博物館経営論	2後		2		○										兼1	
	博物館資料論	2後		2		○										兼1	
	博物館資料保存論	2前		2		○										兼1	
	博物館展示論	2後		2		○										兼1	
	博物館教育論	2後		2		○										兼1	
	博物館情報・メディア論	2前		2		○										兼1	
	小計 (22科目)	—	0	44	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	兼14	—
演習実習科目	海外演習A	1前		2			○										
	海外演習B	1後		2			○										
	ケースメソッド	3前後	1				○		5	2	2					兼1	
	演習	3前後	1				○		5	2	3					兼1	
小計 (4科目)	—	2	4	0	—	—	—	5	2	3	0	0	0	0	兼1	—	
卒論事前ゼミ	3後	1				○		6	2	3						兼1	
小計 (1科目)	—	1			—	—	—	6	2	3	0	0	0	0	0	兼1	—
卒業論文	4通	8				○		6	2	3	0	0	0	0	0	兼1	
小計 (1科目)	—	8			—	—	—	6	2	3	0	0	0	0	0	兼1	—
合計 (168科目)	—	32	283	0	—	—	—	6	2	3	1	0	0	0	0	兼122	—
学位又は称号	学士 (人間共生学)		学位又は学科の分野				文学/社会学・社会福祉学										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
全学共通科目「人間論」2単位、教養教育科目「領域1～7」27単位、専門教育科目「学部共通科目」4単位、「学科共通科目」6単位、「学科専門科目」34単位、「演習実習科目」4単位、卒論事前ゼミ1単位、卒業論文8単位を必須とし、126単位以上修得すること。また、学科専門科目「ジェンダー・女性学科目群」「社会福祉学科目群」「人間学科目群」の一つ以上で20単位以上を修得し、かつ演習実習科目「ケースメソッド」「演習」の関連する科目を2単位以上を修得し、一つ以上のモジュール履修をする必要がある。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))							1学年の学期区分		2期								
							1学期の授業期間		15週								
							1時限の授業時間		90分								

授 業 科 目 の 概 要				
(人間関係学部人間共生学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 共通 科目	人間論	<p>椋山女学園の教育理念「人間になろう」では、教育を通しての人間完成を目指している。本科目は、教育理念を具現化することを目指し、学生自身の可能性を開発し、将来の生き方についての見識を培うことを目的とするものである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(41 山口雅史、42 山根一郎、43 李敏子/4回)</p> <p><自校教育>自校教育として、(1)本学園・本大学の理念・目的、(2)本学園・本大学の使命と歴史(自校史・沿革)について理解した上で、(3)教育理念とトータルライフデザインのつながりを理解する。</p> <p>(1 大勝志津徳、2 小倉祥子、6 藤原直子、7 吉田あけみ、10 大木直子、33 西出弓枝/6回)</p> <p><トータルライフデザイン>キャリア教育の出発点とし、受動的学習態度から、能動的に自律的・自立的な学習態度への転換への一歩とする。具体的な内容は次のとおりである。</p> <p>(1)自己理解・思考力、(2)キャリア発達と教育、(3)ワークキャリアをイメージしよう、(4)産業とライフデザイン、(5)社会におけるデザイン思考、(6)未来を切り拓く「私」</p> <p>(41 山口雅史、42 山根一郎、43 李敏子/5回)</p> <p><現代と人間>椋山の教育理念と社会における現代的課題をリンクさせ、次のような内容に関する課題について理解し考える。</p> <p>(1)人や国の不平等、(2)教育、(3)環境、気候変動、エネルギー、(4)食育と健康、(5)医療と福祉</p>	オムニバス方式 共同	
	領域 思想と 表現 1	哲学	<p>教養として最低限習得しておきたい哲学に関する知識や思考法を、「正義」や「死」、「家族」「自由」「所有」といった具体的なトピックを取り上げつつ講述してゆく。そのことで受講者一人ひとりが自分自身のドクサ(思い込み)の四われに自覚的になるとともに、多様な観点から物事や世界を眺め、必要に応じて批判的に(あるいはメタの視点から)考えることが可能となるような態度を身につける。また、コメントペーパーや期末のレポート課題への取り組みを通じて、自分なりに考えた事柄を説得力をもって他者に伝えるための表現力を養う。</p>	
		文学	<p>教養教育科目の「文学」は、日本文学・英米文学などの授業担当教員の各々の専門に基づき複数開講されている。各専門領域において様々な地域性・時代性に即して文学作品が教材として選択され、作品の読解・分析・解釈を中心に据えながら、言語に対する深い理解と関心、現代を生きる私たちの価値観がどのように形成され、どのような文化を創造していくかという問題に受講者が向き合えるよう、それぞれの授業が設計されている。本授業では、学問の性質上、受講者自身が考えて意見を記述・表現することが求められる。</p>	
		芸術	<p>「芸術」は、『美術・芸術学』、『現代の舞台芸術』、『書芸術』、『オペラを通しての芸術』などのテーマを取り扱う。それぞれの分野の作品の鑑賞を通して理解と知識を深め、その芸術に関する歴史や文化的背景なども学ぶことにより、作品に対する豊かな鑑賞力を養うとともに分析力や考察力を高める。またこの授業を通して作品を鑑賞する方法や鑑賞の観点を修得する。授業は講義形式で行われ、DVDやビデオ映像などの動画資料やスライド資料などを用いて進められ、各分野の作品を鑑賞する機会も盛り込む。</p>	
		心理	<p>科学的な研究方法によって明らかにされてきた人間の心理と行動のしくみについて理解することを目的とする。感覚・知覚、学習、感情・動機づけ、認知(記憶・思考・判断)、発達(新生児・乳幼児・青年・中高年・老年)、対人関係、個人と集団(リーダーシップ、グループダイナミクス)、パーソナリティと人格・知能検査、心理的健康と援助、精神障害の特徴と心理療法といった代表的領域について、それぞれの基礎的な特徴を概説する。また、心理学研究の方法論(心理学における人間観及び実際の研究方法)について解説する。</p>	
	言語	<p>教養教育科目「言語」は、日頃無意識ながら自由自在に使っている日本語を中心に、特徴的な語彙、文法そして語用面について言語意識を高めることを目標とする。日本語の運用能力向上の一助となるよう演習も取り入れる。語彙・文法面は、日本語環境で成長するなかで、まさに自然に習得しているので、質量両面でどれほど豊かな言語知識を有しているか、再認識できる領域である。他方、語用に目を向けると、敬語、オノマトペ、文字など日本語使用の場面を客観的に観察し、また外国語と比較をしながら、各自の言語行動を振り返る機会を提供する。</p>		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人類学	人類学は「人類とはなにか」という問いに答えようとする学問分野である。教養教育科目の「人類学」では、人類に備わる二つの特徴に注目し、この問いにかかわる最新の知見を教授する。一つめは人類の生物学的特徴とその進化的背景を理解しようとする「自然人類学」の立場からの考察である。ここでは、人類の生物学的特徴のいくつかを、他の生物と比較しながら学び、人間を深く理解し客観的に見る力を養う。二つめは人類と他の生物の大きな差異の一つである文化に焦点を当てた「文化人類学」の立場からの考察である。こちらでは、文化の本質やその多様性を学び、社会的存在としての人間を多角的に捉えるための視座を獲得することを目標とする。	
領域2 歴史と社会	歴史	この授業では、主に日本古代史～近世史までを範囲として概論的内容を中心に講義する。歴史というと暗記科目という印象を持つ人も多いが、大学で学ぶ歴史の見方、考え方を涵養する。これに加え、授業を通して現代日本を知る上で、必要な知識や歴史を正しく知る学びの実践や一般的教養の向上のみならず、歴史的分析法を学び、論理的思考法を知ることが目的とする。授業回によっては、神話、昔話、童謡、絵本、詩、文字、通貨、食物などの具体的な対象を取扱い、時代ごとの文化や習俗を学ぶとともに現代との異同を考える。	
	法	この科目では、「法」の一般的説明を行い、その後、民法、刑法等のうち、学生に関心があり、かつ法学上も基本的で重要と思われる論点について説明を行う。「法」を一般的、抽象的に学ぶだけでは困難も多いため、日常生活で身近な具体例を多く交えながら「法」に対する理解を深める。これらの学習を通して、法の現代社会における機能や存在意義を理解し、論理的思考力や表現力を涵養することを目指す。授業は講義中心で進めるが、適宜映像資料を用いて理解の促進を図るとともに、教員と学生や学生同士での対話を行う。	
	日本国憲法	この科目では、以下のトピック——①日本国憲法の根底にある立憲主義の考え方、歴史的背景と意義、②日本国憲法の三原則である「国民主権」、「平和主義」、「基本的な人権の尊重」、③日本国憲法で規定する政治や統治の規則、④日常生活での身近な事例や見聞きしたことのある社会問題と日本国憲法の関係——について学習する。憲法を一般的、抽象的に学ぶだけでは難解な面もあるため、具体例を多く利用して日本国憲法に対する理解を深めるとともに、条文や判例、学説の基本を理解をめざす。	
	経済	経済とは、社会でヒト、モノ、カネ、情報が生産され、取引され、流通・消費され、さらにはそれを繰り返す関係のことである。私たちの生活がどのような仕組みで成り立っているのかを、経済を通じて社会全体が形づくられていく過程を踏まえながら学んでいくのが経済学である。経済活動を単純化すると家計・企業・政府が担っているといえ、それぞれが社会においてどのような役割を果たしているのか、また、それぞれがどのようにお金をやとりし合い経済活動を展開しているかなどの経済の仕組みなどについて中心に学ぶ。	
	社会	この科目では、近代化、産業化、国際化、社会階層、ジェンダー、地域、エスニシティ、教育、家族、格差と貧困などのトピックを取り上げ、社会学的な観点から社会現象・社会問題の構造や背景を解説する。「社会の常識」、「あたりまえ」を問い直す、という社会学が強みとする思考法を学習することで、私たちが生活する「社会」とはいかなるもので、どのように成り立ち、機能しているかについての理解を深め、社会問題や社会現象に対する視野を広げ、社会を批判的に検討する思考力、分析力を涵養することを目的とする。	
	地理	地理学とは地球上で生じる様々な事象を研究する学問であり、地誌・人文地理学・自然地理学に大別される。そこで本科目では、地理学の基礎的概念や用語について概説するとともに、地理学が自然現象、人文・社会現象をどのように記述・説明してきたかについて学ぶ。さらに地理学における重要な表現のひとつである地図の意義と役割を理解したうえで、地理学的な見方や考え方を習得するとともに、人間の生活がどのような空間や場所・地域をつくり出しているか、また、空間・場所・地域からどのような影響を受けているかについて分析する力を養う。	
	教育	現代の子どもと教育をめぐる様々な課題に焦点をあて、それらが現代の人間形成にどのような影響を及ぼしているのかについて考える。具体的には、教育と学習の意味、現代日本の教育問題、人間の発達の要因、生涯学習の意味と目的、教育の歴史、教育の思想、外国の教育事情、グローバル人材の育成について各授業の主題として扱い、また、教育行政、教育財政、家庭教育、初等・中等教育に関連する諸事象も適宜紹介し、学校を中心とした社会の教育システムにどのような意義を見出すかを考えていく。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
領域 自然と 科学技術 3	物理の世界	この科目では、物理現象を対象にして、原理原則に基づいて自然現象を理解する基礎を涵養する。理科系の予備知識、特に数学の知識を多くは前提とせず、人を取り巻く環境、身近な現象や単純な物理系を中心に講義しこれを取り扱う基礎的な手法や考え方を学ぶ。必要に応じて、簡単な実験等を行い、現象の観察、データの分析や予測を行えるようにする。これらを通して、自分自身と自然とのつながりを意識できる感覚を磨き、世界を科学的に理解する思考力を養う。	
	化学の世界	本科目の授業テーマは、生命の仕組みや環境問題といった一般教養を習得するための基礎となる化学である。私たちの身の回りの物質や現象は、「化学」と密接に結びついている。本授業では、身近な物質や生命現象について、分子レベルで理解し、論理的に考察できる能力の習得を目指している。化学の基礎理論、様々な無機・有機化合物の特徴や性質、物性、化学反応などについて説明する。また、高度な専門知識や、最新のトピックも随所に織り交ぜながら講義を進める。	
	環境の科学	気候変動 (climate change) を中心とした地球環境の変化は人間生活に大きな影響を及ぼしつつある。この科目では地球上の物質循環の仕組みを基盤として、地球および地域の環境問題の理解と、それらの解決策について考えることを目的とする。例えば気候変動の主要因とされる大気中の二酸化炭素濃度の上昇は、地球上の炭素循環に人間活動からの化石燃料由来の二酸化炭素が流入することによって引き起こされると考えられる。化石燃料の利用は私たちの生活に深く関わっており削減は容易ではないが、一人一人の理解と行動によって実現可能となる。この科目の履修を通じて行動する地球人となって欲しい。	
	地球の科学	46億年の歴史を持つ地球は、隣接する金星や火星とは異なり、大量の液体の水、高濃度の酸素が含まれた大気を持ち、生命活動に満ち溢れた惑星である。しかしながら生命誕生以降、複数回の全球凍結 (スノーボールアース)、小惑星の落下等による破滅的な環境変化に何度も見舞われ、5回の大量絶滅を経て現在に至っている。本科目では、地球の歴史を紐解きながら、地球と生命の共進化を理解し、その成果をもとに今後の地球環境を考えることを目的とする。	
	生命の科学	生命の科学は、近年、急速な発展を遂げつつある。特に分子生物学、分子遺伝学、再生医学など、「バイオの世界」には目を見張る進歩がある。本講義では、生命を取り巻くこれらの進歩の中から、生命科学を専門としない一般人にとっても教養として知っておくべき事項について、生命の科学を広く、わかりやすく俯瞰しながら講義する。また、「進化」の視点から生命現象を眺めることによって、生命とは何かの理解を深めることができる。本講義では、進化学の立場から、生命を、個々の事項としてではなく、体系的、総合的に把握することに努める。	
領域 数理と 情報 4	数理の世界	日常生活や学問・文化・芸術における数理現象の根底にはある種の構造が存在する。その構造を表現する手段として、数学という世界共通の言語が生まれた。数学を通して異なる数理現象間の関係や大局的な現象と局所的な現象の関係が明らかになる。この講義では、数を数える、数 (物) が変化する、割合 (率) を取るという素朴な行為の考察から、ローン返済や地震の大きさ、黄金比、円周率など身近な話題や経営や情報分野に関連する内容に至るまで幅広い数理対象を、難解な数式は用いず平易な表現により説明し、数学の面白さを伝える。	
	統計の世界	技術の進歩により容易に得られるようになった大規模なデータを分析するための基礎となる統計学の素養を身につける。実際のデータをもとに、実習を交えながら、基本的な統計量である平均や分散、複数のデータから求める相関係数や回帰分析などの求め方を学ぶ。また確率論から、二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布、t分布などの確率分布を理解する。そしてこれらの分布を用いて行う母集団の平均などの推定や検定の仕組みについても触れる。	
	コンピュータと情報Ⅰ	本講義では、コンピュータおよびインターネットについて基礎的なしくみを理解するとともに、コンピュータでの実習を通じ、大学生として必要な情報リテラシーを身につける。具体的には、コンピュータのOSの役割や基本操作からはじめ、ワープロソフトを用いた文書作成、プレゼンテーションソフトによる資料作成と発表、電子メールのマナー、インターネットを利用するうえで知っておくべき著作権や個人情報の取り扱いなどの情報倫理や情報セキュリティの知識について等、学生生活や社会生活を安全に過ごせる基礎的な情報活用力を養う。	
	コンピュータと情報Ⅱ	現代社会において問題解決プロセスを効率良く進めるためには、情報処理の基礎知識や基本操作の習得が不可欠である。本講義では、表計算ソフトを利用した複雑な計算、データの集計・分析、表の作成、適切なグラフ作成 (データの見える化)、データベースによる情報管理について学び、情報処理の基本概念の理解および操作スキルを身につける。また、データベースの応用やwebページ制作など情報処理技術の応用的内容として学修し、学生生活や社会生活で役立つ発展的な情報活用力を養う。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
領域 5 言語とコミュニケーション	外国語（英語A）	この科目では、英語の基礎的能力を育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意／不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力（＝聞く、話す）の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力（＝書く）、読解力（＝読む）を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語（英語B）	この科目では、外国語（英語A）に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意／不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力（＝聞く、話す）の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力（＝書く）、読解力（＝読む）を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語（英語C）	この科目では、外国語（英語B）に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意／不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力（＝聞く、話す）の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力（＝書く）、読解力（＝読む）を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語（英語D）	この科目では、外国語（英語C）に続き、英語の基礎的能力をさらに育成し、読む、聞く、話す、書くの4技能を高めることを目標とする。英語の得意／不得意にかかわらず内容についてこられるよう、基礎的な内容から始め、徐々に発展的な内容に進んでいく。伝えるための英語コミュニケーション能力（＝聞く、話す）の伸長だけでなく、文法や語彙力を高めることで作文力、文章表現力（＝書く）、読解力（＝読む）を伸長することを旨とする。授業は講義形式とグループワークを織り交ぜて行い、知識・理解の定着を図るため小テストを複数回実施する。	
	外国語（ドイツ語Ⅰ）	この授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、ドイツ語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。さまざまな練習を行うことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく身につけることを目指す。具体的には、ヨーロッパ言語共通枠A1前半レベルの文法と表現を扱い、主に現在形で自分や他人を紹介する、身近な話題についてごく簡単な受け答えをする、簡単な文が書けること等を目標とする。また、ドイツ語圏の社会と文化についてもおりに触れて紹介し、ドイツ語圏やヨーロッパに対する理解を深める。	
	外国語（ドイツ語Ⅱ）	この授業は、「外国語（ドイツ語Ⅰ）」に続き、ドイツ語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、ドイツ語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。さまざまな練習を行うことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく身につけることを目指す。具体的には、ヨーロッパ言語共通枠A1後半レベルの文法と表現を扱い、自分の希望を表現する、過去の出来事を報告する、身近な話題について相手と簡単な会話をする、一定の長さの文章が書ける等を目標とする。また、ドイツ語圏の社会と文化についても引き続き理解を深める。	
	外国語（フランス語Ⅰ）	この授業は、フランス語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得することを旨とする入門授業である。文法の修得のみに終わらず、フランス語を実践的に活用することを大切にしたい。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験5級に合格点を取れることを目標にする。また、世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、現代世界に生きるため国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語（フランス語Ⅱ）	この授業は、外国語（フランス語Ⅰ）においてフランス語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、フランス語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得することを旨とする基礎的授業である。文法の修得のみに終わらず、フランス語を実践的に活用できることを大切にしたい。言語レベルとしては、学期末に実用フランス語技能検定試験4級に合格点を取れることを目標にする。また、世界に広がるフランス語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、現代世界に生きるための国際教養を修得することも重要な目的となる。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	外国語（中国語Ⅰ）	この授業は、中国語をはじめて学ぶ受講生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に獲得する入門授業である。中国語の文法規則の修得と、その実践的活用による会話力の向上を目指して進められる。言語レベルとしては、学期末に中国政府公認の中国語検定試験である漢語水平考試「HSK 1 級」に合格点を取れることを目標とする。また、この授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての入門的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語（中国語Ⅱ）	この授業は、外国語（中国語Ⅰ）において中国語の入門的な知識と運用能力を身につけた学生を対象にして、中国語を読み、書き、聞き、話す能力を総合的に修得する基礎的授業である。中国語の文法規則の修得と、その実践的活用によって会話力のさらなる向上を目指して進められる。言語レベルとしては、学期末に漢語水平考試「HSK 2 級」か、中国語検定試験「中検」準 4 級に合格点を取れることを目標とする。また、この授業では、現代世界に広がる中国語圏の社会と文化についての基礎的な知識を学び、地球市民に相応しい国際教養を修得することも重要な目的となる。	
	外国語（ポルトガル語Ⅰ）	この科目では、ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身に付けることを目的とする。特にブラジルポルトガル語の発音に慣れ、基本的な挨拶表現と直説法現在形の習得を目指す。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣、そして在日ブラジル人に関する内容もあわせて取り扱う。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行うとともに、状況を設定して日常会話の練習を行う。	
	外国語（ポルトガル語Ⅱ）	この科目では、「外国語（ポルトガル語Ⅰ）」に引き続き、ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身に付けることを目的とする。特にブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、応用表現と過去時制を用いた自己表現ができるようになることを目指す。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣、そして在日ブラジル人に関する内容もあわせて取り扱う。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行うとともに、状況を設定して日常会話の練習を行う。	
	外国語（スペイン語Ⅰ）	この授業は、スペイン語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、スペイン語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。スペイン語の初級文法とその表現（主として現在形の動詞を用いた表現）を学びながら、スペイン語の発音ができ、簡単な会話ができるように練習していく。また練習問題を解くことによって、学んだ事柄を確認し、定着を図る。同時にスペインやラテンアメリカの文化、習慣、生活、世界遺産などについて触れ、興味を喚起し、スペイン語圏の国々の人々とのふれあいや旅を始める最初の一歩を踏み出せるようにする。	
	外国語（スペイン語Ⅱ）	この授業は、「外国語（スペイン語Ⅰ）」に続き、スペイン語をはじめて学ぶ受講生を対象とした、スペイン語の初歩を学ぶ入門授業の一つである。引き続き初級文法とその表現（感覚・好み・身体的事柄・気候・過去の出来事などを表す表現）を学びながら、簡単な会話ができるように練習していく。また練習問題を解くことによって、学んだ事柄を確認し、定着を図る。同時にスペインやラテンアメリカの文化、習慣、生活、世界遺産などについて触れ、興味を喚起し、スペイン語圏の国々の人々とのふれあいや旅を始める最初の一歩を踏み出せるようにする。	
	外国語（ハングルⅠ）	この科目では、①ハンガルの読み書きができる、②文法の基礎をマスターする、③簡単な挨拶や会話ができる、の3点を目標とする。具体的には、韓国語の文字（ハングル）を体系的に学び、発音の練習（リスニングやスピーキング）を十分に行う。また、学習した基本的な表現を用いて簡単な文章を作る練習やドリル形式の練習を通じて学習したことの定着を図る。授業の予習・復習、さらには授業外での自習に役立つよう、辞書の使い方を学び、実践する。あわせて、韓国の文化、習慣を紹介し、それらに対する理解を深める。	
	外国語（ハングルⅡ）	この科目では、①文法の基礎をマスターする、②簡単な読解や会話ができる、③履修後に韓国語学習を継続する力を身につける、の3点を目標とする。その上で、韓国語の様々な語彙や文法を学んでコミュニケーションの幅を広げること、辞書を用いて簡単な短文および新聞・雑誌記事などの内容を把握できるようになることをめざす。韓国語の語彙や表現における日本語との異同にも着目し、円滑なコミュニケーションのための知識を養う。韓国の文化、習慣に対する理解をさらに深め、学習意欲をさらに増進することをめざす。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
領域 健康とスポーツ 6	健康とスポーツの理論	<p>健康の自己管理を学び、生活習慣病などを予防し、スポーツを通し人間として自立する術を身に付けることを到達目標とする。健康、病気・障害、運動・スポーツなどのテーマで学生生活の身近な問題から課題を見つけ、考え討論し学習する。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (47 及川佐枝子/4回)</p> <p>はじめに健康の概念を学ぶ。飲酒・喫煙・薬物など嗜好品による健康影響について学び、正しい行動を考える。また地球温暖化なども含めた環境変化が及ぼす健康影響について学び、健康の維持と持続可能な社会の実現について考える。また生活習慣病や女性のやせなど、家族・社会の健康課題に焦点をあて解決法を考える。</p> <p>(66 山田紀子/3回)</p> <p>食事・生活習慣が及ぼす健康影響について学び、日々の食事の重要性を理解する。また運動から栄養と健康を考え、運動時に必要となる栄養素を知り、適切な食選択の方法を理解する。</p> <p>(51 中嶋文子/1回)</p> <p>女性の体の特徴について学び、妊娠出産に向けた若年時からの女性の体づくりを学ぶ。</p> <p>(54 肥田佳美/1回)</p> <p>社会資源のデジタル化について学び、自身の健康や食・運動習慣に無意識のうちに関心が持てるような活用方法を考える。</p> <p>(45 生田美智子/1回)</p> <p>運動の健康面での効果を学び、意識的に行う運動の重要性を知り自身の健康維持に必要な運動の実践を目指す。</p> <p>(24 小林純子/1回)</p> <p>身体を動かすことによってこころとからだに及ぼす効果を学ぶ。</p> <p>(38 福田誠司/2回)</p> <p>運動時に機能する体の箇所について学び、運動できる仕組みを理解する。また、運動中に起こり得る傷害の発生機序を理解し、発生予防の方法を考える。</p> <p>(36 早川幸博/2回)</p> <p>生活習慣病の発生機序について学ぶ。また運動時に起こる傷害に対する正しい救急処置の方法を学び、実践できるようになることを目指す。</p>	オムニバス方式
	健康科学	この科目では、健康維持のための方法とそのメカニズムについて学習する。あわせて、生涯にわたる健康維持のための基礎的な知識を習得し、外敵を排除しそれを認識する免疫機構やワクチンの仕組みを学ぶ。具体的には、喫煙と健康、生活習慣病と正しいダイエット、免疫の歴史、概要・ワクチン接種、免疫成立の機序と複雑性、ウイルスの複製機序と新型コロナウイルス、免疫細胞の自己認識と排除等のテーマについて詳しく学習する。	
	スポーツ実習A	この科目では、スポーツを実践することによって健康的な生活を送る術を学習するとともに、体力を維持・向上させることを目的とする。加えて、生涯にわたって運動を行うことの重要性を学ぶ。また、実習でのグループワークを通して学生同士で助け合い、協力することにより、よりよい人間関係を構築し、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養する。 具体的なスポーツ種目として、卓球、バドミントン、コーディネーション、バレーボール等があり、自身が興味を持った科目を選択する。なお、この科目はスポーツ実習Bの履修有無にかかわらず履修が可能である。	
	スポーツ実習B	この科目では、スポーツを実践することによって健康的な生活を送る術を学習するとともに、体力を維持・向上させることを目的とする。加えて、生涯にわたって運動を行うことの重要性を学ぶ。また、実習でのグループワークを通して学生同士で助け合い、協力することにより、よりよい人間関係を構築し、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養する。 具体的なスポーツ種目として、卓球、バドミントン、コーディネーション、バレーボール等があり、自身が興味を持った科目を選択する。なお、この科目はスポーツ実習Aの履修有無にかかわらず履修が可能である。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
領域 7 トータル ライフ デザイン	ファーストイヤーゼミ	この科目では、初年次教育科目として、大学での学びの基本を学習する。具体的には、文献の読み方や要約の仕方、ノートテイキング、資料や文献の検索の仕方や図書館の利用法、アカデミックライティングの方法と注意事項、発表の仕方や発表資料の作り方、引用や参考文献の書き方と研究倫理、などのテーマについて学ぶ。あわせてパソコンを利用した文章やデータの作成方法の基礎についても学習する。演習科目のため、少人数形式で行い、学生同士でコミュニケーションを取りながら進める。	
	ジェンダー論入門	本講義では、ジェンダー概念を理解し、現代社会の抱える問題についてジェンダーの視点から考察することを通して、社会問題を解決するための思考と態度を身につけることを目的とする。そのために、ジェンダー概念を生み出し精錬させてきたフェミニズムの思想と代表的な議論や論争などを取り上げ、個人の生き方と性が密接に関連していることを理解する。友人や恋人、家族、学校、職場、コミュニティや国家と、個としての私たちの関係を「ジェンダー」という視角から読み解く知識を獲得するとともに、ジェンダーに関連する時事問題への関心を高め、理解する力を身につける。	
	生活と防災	<p>生命の危機に瀕する災害事態においてこそ、安全確保や生活支援を通して“他者との共生”を実現できる人材を育成するため、地震や豪雨などの自然災害のリスクを理解し、防災の多方面にわたる実践的知識を修得することを目標とする。そのために、本学内外の多彩な講師から、南海トラフ地震など想定される自然災害に対する最新の科学的な知識を修得するとともに、演習や実習など実技的な講習を通して、災害時に的確な判断と適切な行動ができる能力・スキルを高めることで、地域防災に貢献できる知識・技能を身につける。(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(125 福和伸夫/1回) ホンネとホンキで大規模災害を凌ぐ (29 柗窪優二/1回) 災害と報道～東日本大震災を映像で語り継ぐ～ (107 坪木和久/1回) 地球温暖化と気象災害 (79 浦野愛/1回) 災害&防災、私たちにできることを考えよう (51 中嶋文子/1回) 災害時における女性の安全・安心学 (42 山根一郎/3回) 公助と防災情報の活用：ハザードマップ、気象情報の読み方 愛知県の防災対策について 災害時の心理、行動：正しく恐がるために (63 清水秀丸/1回) 建築の耐震安全性 (43 李敏子/1回) 被災者の心のケア (44 阿部順子/1回) 住宅と安全 (122 平山修久/1回) 都市インフラと災害情報のあり方について (81 岡田公夫/1回) 地震に対するの自助と共助 (48 門屋亨介/1回) 大規模災害時の食の備えと安全 (50 寺西美佐絵/1回) 災害時の医療：知っておきたい基本的な災害時医療の知識</p>	オムニバス方式
思考のスキル入門	かつてパスカルは「人間は考える葦である」と言った。しかし、情報化と複雑化が加速度的に進む現代社会において、私たちはますます「考える」ことをしなくなっているのではないか。では、考えることができるようになるためには何が必要なのだろう。本授業では、社会で実際に起こっている出来事（事例）にも目を向けながら、物事を批判的に思考し、自身の考えや意見を練り上げ、それを論理的に説明するスキルを身に付けるとともに、他者の立場に身を置いて物事を公平に捉えるエンパシーの能力をも涵養するためのトレーニングを行う。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	AI・データと社会	<p>社会においてデータサイエンスやAIが普及する中で、AIやデータサイエンスに関する基礎知識を身に付けることを目標とする。まず、社会で活用されているデータの形式について学んだうえで、データ・AIの活用領域や活用のための技術を学ぶ。また、データ・AIが利活用されている事例について学ぶとともに、その最新動向を知る。後半の授業ではデータの基本的な読み方を学ぶとともに、データ・AIを扱う上での留意事項やデータ・AIを守る上での留意事項を学ぶ。また、データ構造やアルゴリズム、プログラミングの基礎についても学修する。そのうえで、データ・AIに関する応用的な技術や活用実践を学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(49 木田勇輔/1回) 人間の知的活動とAI の関係性について幅広く学び、AI・データサイエンスを学ぶ意義を考える。</p> <p>(64 福安真奈/2回) 調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなどのデータ形式を学ぶ。</p> <p>データ・AI の活用領域 導入データ・AI など様々な領域での活用の広がり(生産、消費、文化活動など)を紹介する。</p> <p>(59 向直人/2回) データ解析(予測、グルーピング、パターン発見、最適化など)やデータ可視化の諸手法について学ぶ。</p> <p>データサイエンスの手順について学び、データ・AI 利活用事例を少数ピックアップして学ぶ。</p> <p>(60 矢島彩子/2回) AI 等を活用した新しいビジネスモデルやAI 最新技術の活用例を紹介し、近年のトレンドを知る。</p> <p>(62 塩澤友樹/2回) データの種類、分布、代表値とばらつきなど、記述統計学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>標本抽出、誤差、相関と因果など、推測統計学の基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>(56 松山智恵子/2回) ELSI、個人情報保護、データ倫理、アルゴリズムバイアスなど、倫理的な注意事項について学ぶ。</p> <p>情報セキュリティ、匿名加工などの諸技術を知り、事故例から注意すべき点を学ぶ。</p> <p>(30 鳥居隆司/2回) データの基本的な構造(数と表現など)について学び、プログラミングの基礎(変数など)を知る。</p> <p>アルゴリズムの表現方法(フローチャート)を学び、ソートやサーチなどの基本的なアルゴリズムを知る。</p> <p>(53 早瀬光浩/2回) 画像データの処理、画像認識、画像分類、物体検出など画像解析の基礎を学ぶ。</p> <p>教師なし学習、教師あり学習について知り、いずれか(もしくは両方)の事例を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	ワークキャリアデザイン	<p>本学の目指すトータルライフデザイン教育の視点を踏まえ、大学生である現時点での自身の将来に関する考えや視点と、卒業後のキャリアに向けての働くことのイメージや価値を検討する。多彩なライフイベントとキャリア移行などと向き合い、生涯にわたって、自分らしく生きていくことを可能とする素地を涵養するため、十分な自己理解とワークライフバランスをはじめキャリアを理解する多様な視点を学習することを通じて、自身のキャリアデザインを構築するための知識と視点の獲得を目指す。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ビジネススキル入門	<p>社会で求められる「コミュニケーション力」の基礎となる「伝える力」を身に付け、論理的でわかりやすい文章を書く「ロジカルライティング」、自分の意図を明確に伝える「プレゼンテーション」の能力向上を目指す。また、情報収集力、論理的思考力、分析能力、傾聴力、話す力の向上のために「ディベート」を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 吉田あけみ/1回) 人は他者と関わり共同して暮らしているが、時にコミュニケーション障害が発生し、仕事上のトラブルや感情の行き違いが起こる。コミュニケーションの阻害要因を確認し、より良いコミュニケーションをとることの大切さを理解する。 (76 稲葉直子/7回) 毎回「聞く・話す・書く」のコミュニケーションワークを実施し、「判断する力・伝える力」を身に付ける。「ロジカルライティング」では、伝わりやすさ・分かりやすさを重視したライティング手法を学び、「根拠のある主張」を論理的な文章で書く力を養う。その後、学んだ手法を用いて、プレゼンテーション資料を作成し、説得的な「プレゼンテーション」を実践する。また発表後、学生が相互評価することで、自己成長を確認する。 (118 長谷部浩一/7回) 「ディベート」を行う。論題についてリンクマップを作成し、論理的に物事を検討する視野を養う。資料を集め、読み解き、分析して、多角的に検討して「立論」を作成する。反駁シートも準備して、試合に臨む。相手の主張を傾聴し、反駁した上で、自分たちの主張を論理的に展開する。チームで準備して、試合に臨むことによって、チームワークの大切さも学ぶ。</p>	オムニバス方式
	キャリア形成実習Ⅰ	<p>企業や自治体等で、将来のキャリアに関連した就業を実際に体験する科目である。大学が定めた要件を満たす場合に単位認定する。まずは学内で事前指導を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。日々の振り返りとして日報を作成し、企業担当者によるフィードバックを受ける。事後指導での振り返りや報告書の作成、報告会での成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択や高い職業意識の形成に繋げる。</p>	
	キャリア形成実習Ⅱ	<p>「キャリア形成実習Ⅰ」に引き続き、企業や自治体等で、将来のキャリアに関連した就業を実際に体験する科目である。大学が定めた要件を満たす場合に単位認定する。まずは学内で事前指導を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。日々の振り返りとして日報を作成し、企業担当者によるフィードバックを受ける。事後指導での振り返りや報告書の作成、報告会での成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択やより高い職業意識の形成に繋げる。</p>	
専門教育科目	学部共通科目	<p>人間関係論A</p> <p>(概要) 本講義では、人間関係の諸問題を考えていくうえで参考になりうる基本的な知識や考え方を、主に社会福祉や哲学・倫理学の観点から、概論的に紹介・検討してゆく。そのことで、人間共生・心理の学科を問わず、初年次の段階で身につけておいたほうが良い「人間関係学」の基礎的な知見を涵養することを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (4 手嶋雅史/8回) 人はいじめや差別をする。人は命を投げて誰かを助ける。加害者もいれば被害者もいる。当事者もいれば第三者もいる。こうした行為と社会構造の関係の諸状況に注目して、現代社会における生活の安定、医療、教育、職業などの保障を含む幅広い社会的方策を自分自身の問題として捉えるための視野を養う。 (57 三浦隆宏/7回) 後半は、主に哲学・倫理学の観点から、現代社会で生じている人間関係の具体的な諸問題と「ウィーク・タイズ(弱いつながり)」や「サードプレイス(第三の場)」、「シェア」、「分人」、「オープンなシステムとしての私」といった(上述の諸問題を考えるうえで役に立つであろう)概念とを自在に往還しながら、「私たちがひとと共に在ること」の意味について、考えてゆく。</p>	オムニバス方式

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人間関係論B	<p>(概要)</p> <p>本講義では、人間関係の問題を考えるうえで役に立つ心理学や人間共生に関する基本的な知識や考え方を身につけ、自分なりの物事の見方を養う。目に見えないが確かに存在している「心」や「人間の共生」の仕組みや働きを知り、人間関係を作るために必要な資質・能力とは何か、それらはどのように養われるか、人と社会のつながりをどのように捉えればよいのかを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(15 安立奈歩／8回)</p> <p>人は同じ状況に居合わせても感じ方も対処方略も異なる。生育環境や発達過程によってもそれらは異なる。また意識的にこうしようと思ってもなぜかこうなってしまったという事もある。本講義では、ストレス反応の個人差、無意識の働き、乳幼児期の発達を中心に学び、心理学の諸問題を自分自身の問題として捉え、発見的に考察する。</p> <p>(11 大木龍之介／7回)</p> <p>人と関わること、人とつながることにおいて、性別による影響は少なくない。性別に関係なく共通の経験があれば、遊び、進路・就職、スポーツ、恋愛・結婚などの経験は性別によって違う場合も多い。その違いはどうして生まれるのか、そこにどのような問題が出てくるか。ジェンダーの視点から、人間関係を考察することによって、現代社会における人間関係の問題を理解し、多様な人間と共生するための視野を養う。</p>	オムニバス方式
学科共通科目	人間共生の諸相A	<p>(概要)</p> <p>本講義は、「生／性の多様性」「社会と福祉」「人と環境」のモジュールに関連したテーマを扱う。具体的には、多様な女性の生き方、社会福祉、子ども・若者の人間関係やかれらが育つ環境に関連した具体的な論点を取り上げ、考察していく。具体的な事例から、今日における人間の共生と人間関係の在り方について考えて行く。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 佐川佳之／5回)</p> <p>近年の子ども・若者の人間関係をめぐる具体的な論点を取り上げ、議論していく。友達、いじめ、ひきこもり、労働、居場所、政治などをキーワードに、具体的な事例から今日における子ども・若者の人間関係の葛藤の断片を示すと同時に、そうした葛藤を通じて構成される人間関係のあり方について考察する。</p> <p>(6 藤原直子／5回)</p> <p>学ぶこと・働くことの意義や役割を理解し、今後の生き方、将来展望についての考えを構築する。これから生きていく上で直面する課題やそれへの対処の仕方、「女性」の生き方について、多様性という視点から学ぶ。多様な働き方、生き方などのライフスタイルを実践している本学科卒業生をゲストスピーカーとして招き、ディスカッションを行う。</p> <p>(12 森川和珠／5回)</p> <p>ライフステージ毎に直面する福祉的問題は、人生100年時代の到来とともに大きな関心事となっている。必要な社会福祉制度・社会保障制度の現状と課題について事例を通じて学びを深めながら、共生社会の実現にむけ今後求められる社会福祉の制度や政策について考察する。</p>	オムニバス方式
	人間共生の諸相B	<p>(概要)</p> <p>本講義は、「生／性の多様性」「社会と福祉」「人と環境」のモジュールに関連するものである。「人間共生の諸相A」での学びを基礎とし、女性の職業キャリア、ソーシャルワーク、多種多様な社会文化に関連した具体的な論点を取り上げ、考察していく。それらの具体的な事例から、今日における人間の共生と人間関係の在り方について考えて行く。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 小倉祥子／5回)</p> <p>現代社会において、女性が就業継続するためにどのような課題があるのか、就労を阻害する要因のうち、意識、企業内制度、税の仕組みから現状を考察する。また、「人間共生の諸相A」のゲストスピーカーの話を参考にして、自身の職業キャリアについて考える。</p> <p>(3 小柴住まゆ子／5回)</p> <p>現代社会が直面する福祉的課題は山積している。その解決にむけ奮闘する実践現場の現状と課題について事例を通じて理解し、専門職だけでなく地域に住む人と人とのつながりの重要性や包括的な支援ネットワークのあり方について考察する。</p> <p>(9 松浦直毅／5回)</p> <p>グローバル化が進む中、他者を理解し、他者と共に生きることは重要な課題となっている。人種、民族の概念の動態、それらをめぐる諸問題、世界の多様な文化のあり方について幅広く学び、日本文化も含む多文化共生社会の在り方を考えることを通して、人間社会の多様性と共通性について考える。</p>	オムニバス方式

科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目		基礎演習 A	本ゼミナールは、大学での専門的な学習を行うためのトレーニングを中心とする。レポートや論文作成に必要な知識、情報機器の利用とした情報検索やプレゼンテーション、ディスカッションの経験を通して、大学での専門的な学習に必要な技術を身につけることを目的とする。具体的には、レポートの書き方、先行研究・参考資料の収集方法、文献講読の仕方、研究方法の知識、テーマの深め方や問いの立て方、口頭発表の仕方について指導を行う。	
		基礎演習 B	本ゼミナールは、人間共生学科の専門領域に関する自主的学習を行うためのトレーニングを中心とする。ジェンダー・女性学、社会福祉学、人間学の各テーマの中から自身が選んだ課題の学習を通して、自学自習の能力を身につけることを目的とする。具体的には、各自のテーマに関する先行研究の読解、資料収集、各自の研究方法にもとづき、個別指導を交えながら、レポート作成、口頭発表を行う。	
	ジェンダー・女性学 科目群	女性学・男性学	本講義は、近年、現代の女性、男性のライフコースに関わる諸問題（例：働き方、性別役割分業など）をジェンダーの視点から取り上げる。特に、戦後日本では、「主婦」は、家事・育児等の責任者としてだけでなく、労働市場や地域コミュニティを支える社会的な存在としても位置づけられている。一方、既婚男性はその妻である「主婦」のサポートを前提に労働市場で活動することが期待され、そのことが依然として「男らしさ」の評価基準となっている。本講義は、「主婦」としての女性とそのパートナーとしての男性の役割や意識の変容に着目しながら、夫婦関係や「女らしさ／男らしさ」についての様々な論争を考察し、現代日本のジェンダー格差について深く考える。	
	ライフスタイル論	結婚する・しない、職業を継続する・しない、子どもをもつ・もたない、子どもを保育所に入所させる・させない、老親の介護をする・しない等、女性のライフスタイルにかかわる選択肢は広がってきている。このような人々のライフスタイルの多様化にともない、家族を単位とするライフスタイルを大前提とした社会制度が、曲がり角に来ている。「男は仕事、女は家事・育児」を大前提とした家族単位のものから、それを前提としないシングル単位のものに変化しつつある。これらの社会制度の変化や変化の背景を学ぶことによって、自分自身のライフスタイルを考える。		
	女性とライフステージ	女性のライフコースが多様になり、各ライフステージの問題も多岐にわたるようになってきた現代社会に生きる女性をとりまくさまざまな問題を考える。特に、女性の家族的な関係を、現代日本社会の家族の変化に焦点をあてて考える。まず、家族とは何かを考え、その家族を取り巻く法律を概観した上で、子ども・若者からスタートして、女性のライフステージ上の問題を考える。さらに家族をとりまく社会の現代的な変化を理解することによって、自らのライフコースを主体的に選択できる判断力と行動力を身につける。		
	女性と社会A	私たちはみな社会の中に生きている。また、社会は私たち人間と人間の関係によって成り立っている。つまり、私たちは社会から影響を受けている一方で、社会に対する働きかけも行っている。その関係性を理解し、現代社会をより自立的に生きていくために、私たちが今生きている現代社会を見る眼を養う。さらに、平等公平な社会の実現のために、人権問題について考える。特に、現代社会における女性の人権に関する問題を、女性に対して影響の大きい法律をはじめとする社会制度について学ぶこと等によって、考える。		
	女性と社会B	国際社会におけるジェンダー問題を考える。西欧社会の女性たちの性・出産・育児に関する現状と課題を学ぶとともに、アフリカなどの開発途上の地域の女性たちが抱えている問題からも、現代日本社会における性・出産・育児などに関するジェンダー問題を考える。さらに、近年のアジアの女性・家族の変化から、21世紀のジェンダー問題について検討する。特に、性・出産・育児に関する多様な世界の状況を知り、日本のそれらをめぐる問題を考える。		
	女性政策論	<ジェンダー主流化政策の展開>国連等の国際機関によるジェンダー主流化政策の展開を踏まえた上で、日本のジェンダー関連政策の実施過程の特色について基礎的な知識を学ぶ。また、ジェンダー平等の達成度に関する国際指標の比較分析を行い、日本のジェンダー平等の現状を考察する。国際機関、地域統合体、日本など各レベルにおけるジェンダー関連政策の歴史的経緯およびジェンダー平等の達成度の各国・地域の特徴を把握することにより、ジェンダー関連政策の有効性と同時に、批判的視野をもって今日の課題について検討する。		
家族社会論	本講義では、「家族」を取り巻く様々なトピックについて、「近代家族」の成立とジェンダーの視点から学ぶ。具体的には、結婚、離婚、妊娠・出産、子育て、セクシュアリティなど家族関係に関わる現代社会の様々な課題を取り上げ、性別役割分業、未婚化・晩婚化、少子高齢化、貧困化といった社会環境の変化について理解する。また、「個人」や「家族」を取り囲む様々な政策や法制度を取り上げ、日本の家族政策や福祉レジームの特徴についても学ぶ。			

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性と職業生活 A	本講義は、「社会政策」を軸に、現在の労働に関する複数のテーマについてその課題などを概観し、それぞれのテーマで女性労働がどのような位置にあるのかを考えます。とりあげるテーマは、賃金、労働時間、労使関係、非正規雇用、労働力不足と中小企業、若者の就職とキャリア形成などである。女性の就業により、女性自身が社会政策の課題解決の主体となり、社会問題・課題の解決の一助となる可能性について考えていく。	
	女性と職業生活 B	本講義は、労働市場における女性の活躍が期待されている一方で、男女平等やワークライフバランスは実現に程遠い現状について、社会政策のうち家族に関する課題について、女性の就労と関連づけて何が課題であるのかについて検討していくこととする。とりあげるテーマは、子育て支援、女性の貧困、男性介護者、育児休業などである。	
	産業と女性労働	本講義では、明治の産業革命以降、女性はこれまでどのような「産業」で、どのように働いてきたかについてとりあげる。主として、“雇用されて働く女性”に焦点をあて、これまでのおよそ130年間のうち、その中心産業・時代背景といった特徴から4区分する。それぞれの時期の女性雇用の現状等について、講義と視聴覚教材から学修し、各時代(区分)の学びから、現在の女性労働の問題点・課題が、どのような経緯で発生し、現在に至っているのかについて検討する。	
	組織と人間	本講義は、講義の前半では、企業に雇用されて働く労働者が、より働きやすい職場環境を求めて、どのような働きかけや運動を組織の中で行ってきたのか、その歴史等を学ぶ。講義の後半では、現在の日本の労働組合組織を、企業内(事業所内)、産業別組織、ナショナルセンター別に、どのような役割りを果たしているのかについて事例を参考に、労働組合組織への期待と組織がかかえる課題・問題点についてみていく。	
	ジェンダー・セクシュアリティ論 A	本講義では、現代社会に生きる人間の性に関わる概念であるジェンダー、セクシュアリティに関する基礎的知識を身につけるとともに、メディア・学校教育・家族・労働など日常生活における具体的な事例や現象について考察する。その上で、現代社会における性をめぐる諸問題を解決するために、ジェンダーの平等とセクシュアリティの多様性という視点を獲得し、これからの人間がいかに自分の性を生きるか考えるとともに、他者の個性を理解する力を養う。	
	ジェンダー・セクシュアリティ論 B	本講義では、前半では性の多様性の観点から、個人の性の在り方について考察し、後半では現代社会のジェンダー構造という側面から性差別や性暴力について考え、多様なライフスタイルを保障するための実践について考えていく。性をめぐる諸現象を分析し解決しようとする態度を養うために、ジェンダーの平等とセクシュアリティの多様性という視点を獲得し、性に関わる人権侵害の問題を理解するとともに、自分自身の問題として性と生について考察する。	
	教育とジェンダー	ひとの成長・発達にジェンダーはどのように影響しているのか。性をめぐる意識・価値観・態度は、どのように形成されるか。それらの多くは、教育によって、そして学校という舞台上で形成される。ランドセル、制服、遊び、教科書に登場する人物、教師と生徒、生徒どうしの相互作用に性別による影響をみることができる。この授業では、学校や学校文化におけるジェンダー構造を理解し、ジェンダー平等、性の多様性をふまえた教育の在り方について考察する。	
	福祉とジェンダー	本講義では、社会福祉分野において等閑視されがちな女性の福祉ニーズや、その背景にある社会構造を理解し、社会福祉領域における女性支援の現状と課題を学ぶ。女性のニーズの背景に存在しているジェンダー不平等な社会構造を理解し、婦人保護事業など女性を対象とした社会福祉施策を理解し、社会福祉分野をジェンダー視点からとらえなおす力を身につけることを目標とする。	
	法とジェンダー	本講義は、ジェンダー法学の展開と課題をみたらうで、日本国憲法と平等、リプロダクティブ・ライツ、女性の政治参画、主要国のジェンダー平等政策、雇用におけるジェンダー平等と判例の展開、家族に関する法改正と判例の展開、刑法改正と性犯罪等についての講義を行う。日本の男女共同参画社会基本法や憲法14条の性差別禁止原則等の実現状況を確認するとともに、受講生が自ら様々な政策・施策について意見を持つ思考態度を身につけることを目標とする。	
	政治とジェンダー	現在日本の「政治」の場面に共通することとして、「女性不在」が指摘されている。なぜ、女性がいなかったのか、政治的課題となってくるのか。本講義は、政治学の基礎的な概念や理論を学ぶとともに、それらをジェンダーの視点から再検討しながら理解を深めていく。特に、政治参加や政治的代表性、福祉レジームといった政治トピックを取り上げ、国内外の事例を紹介しながら、身の回りで起きている事象がどのように「政治」と関わっているのか、を多角的に分析できることを目指す。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際社会とジェンダー	国連等の国際機関によるジェンダー主流化政策の展開を踏まえた上で、日本のジェンダー関連政策の実施過程の特色について基礎的な知識を学ぶ。また、ジェンダー平等の達成度に関する国際指標の比較分析を行い、日本のジェンダー平等の現状を考察する。国際機関、地域統合体、日本など各レベルにおけるジェンダー関連政策の歴史的経緯およびジェンダー平等の達成度の各国・地域の特徴を把握することにより、ジェンダー関連政策の有効性と同時に、批判的視野をもって今日の課題について検討する。	
	スポーツとジェンダー	スポーツは、公平・平等なものだと思われがちであるが、ジェンダー平等の視点に立った時、スポーツの歴史は必ずしも男女の公平・ジェンダーの平等が保たれていたとは、いいがたい。そして、現代においても、それはまだ達成されていない。スポーツを競技のみならず、スポーツ団体の運営面も含めてジェンダー平等の視点から検討し、ジェンダー平等なスポーツ文化の構築に向けて、何が課題であり、解決策は何であるのかについて考察していく。	
	女性と生涯スポーツ	健康的な身体を作るうえで、スポーツは効果的であるといわれているが、女性の生涯スポーツ参加率は、男性に比して低い傾向にある。女性が生涯スポーツから遠ざけられている要因を理解し、その原因打破のために必要なことを考え、女性が生涯を通じてスポーツを楽しめる状況について考察していく。	
	文化メディアとジェンダー	新聞、雑誌、映画、テレビ、アニメやマンガなど、私たちが取り巻く様々なメディアは、ジェンダーと密接に関係している。広告やニュースにおける「男性/女性」の表現のされ方の違いや、ドラマに描かれる登場人物の性別イメージなど、そのメディア自体が何らかのイメージやメッセージを産み出す文化でもある。この授業では、それらメディアに表象される具体的な事例をジェンダーの視点から分析することで、現代社会のジェンダー問題を考察する。	
社会福祉学 科目群	社会福祉論A	社会福祉の原理と政策をテーマに、社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を基礎とし、そこに至る社会福祉の歴史的展開の過程を学ぶ。特に社会福祉の理論を踏まえた欧米との比較による日本の社会福祉の特性を取り上げ、その背景となる社会問題と社会構造の関係の視点から現代の社会問題を理解する。そして今日の福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念に触れ、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて総合的に理解を深める。	
	社会福祉論B	社会福祉の原理と政策をテーマに、社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を基礎とし、福祉政策の概念・理念を学ぶ。特に、福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について取り上げ、その背景となる福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。そして福祉政策の国際比較の視点にも触れ、日本の福祉政策の類型と結びつけて、日本の福祉政策の特性を総合的に理解する。	
	福祉コミュニティ論	地域社会の現状を捉えながらコミュニティソーシャルワークを総合的に学ぶ。特に福祉行政の実施体制と果たす役割、福祉計画の意義・目的及び展開、多職種及び多機関協働の意義と実際、生活困窮者支援や災害時における総合的かつ包括的な支援体制について具体的な事例や実践活動などから考える。その上で、身近な「地域」に興味関心を持ち、多様化・複雑化した課題の理解を深める。	
	社会保障論A	(社会保障の歴史と構造)本講義は、①私たちの生活と社会保障の関係、社会保障の理念と機能を理解する。②社会保障を時代や社会の変化なかで理解するために欧米や日本の社会保障の歴史を概観する。③社会保障の構造を理解する。④社会保障の財源構成や経済との関係を理解する。また、各論として①わが国の社会保障制度において最も大きな財源を要する年金保険制度を理解する。②高齢社会の急激な進行と高度先進医療の発展に伴い増大する医療費を概観しながら、わが国の医療保険制度を理解する。	
	社会保障論B	(様々な社会保障制度のしくみ)本講義は、わが国における介護保険、労働保険、社会福祉、民間保険の各制度の仕組みを制度毎に理解する。また、これらの各制度における課題を最近の動向を元に理解する。さらに、少子化、高齢化、労働環境の変化などについてわが国の政策を概観しながら課題について理解し、最後に、わが国の社会保障の理解を深めるために、各国の社会保障の状況について理解する。加えて、社会保障そのものの国際化についても理解する。	
	貧困に対する支援	貧困・低所得者の現状とその対策をテーマに、貧困の概念や原因、貧困・低所得層の人々が直面している様々な問題(貧困の現状)を、その背景となる地域社会の変化や貧困とその対策に関する福祉計画を理解し、生活保護などの公的扶助制度の仕組みや機能を学ぶ。その上で「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」の視点から貧困・低所得層対策(公的扶助制度)のあり方を考える。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	福祉サービスの組織と経営	<p>本講義は、福祉サービスの組織や団体の理解やそれらの経営および運営管理の基礎理論を総合的に学ぶ。また、名古屋市社会福祉協議会の職員とのオムニバス講義や学外授業を実施することで具体的実践内容を学ぶことで、少子高齢化社会の福祉サービスを主体的に考え、新たな時代における福祉サービスの提供組織とその新たな経営モデルを判断する力を身につける。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 手嶋雅史/4回) 第1回 福祉サービスの沿革と概要 第13回 集団の力学に関する基礎理論 第14回 リーダーシップに関する基礎理論 第15回 まとめ</p> <p>(129 森建輔/11回) 第2回 福祉サービスを提供する組織 第3回 組織間連携と促進 第4回 経営体制 第5回 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス 第6回 適切な福祉サービスの管理 第7回 情報管理 第8回 会計管理と財務管理 第9回 会計管理と財務管理 第10回 福祉人材マネジメント 第11回 働きやすい労働環境の整備 第12回 組織運営に関する基礎理論</p>	オムニバス方式
	子ども・家庭福祉論	<p>本講義は、子ども・家庭福祉の基本理念や意義、子どもの権利をふくめた歴史的変遷、児童福祉法改正を含めた子ども・家庭福祉の法体系と実施体制について体系的に理解をする。そして、子ども・家庭福祉を担う対人支援専門職の実践現場も学びながら、現代における子どもとその親、地域の社会資源の現状と問題点等について理解を深め、子ども家庭福祉分野における専門職としての態度や志向性についても考える。</p>	
	高齢者福祉論	<p>本講義は、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待の実態、高齢者の地域移行や就労の実態、要介護高齢者の実態、認知症高齢者の実態など)、高齢者福祉制度の発展過程、介護保険制度のしくみやサービス内容、高齢者とその家族に対するソーシャルワーク実践について理解する。</p>	
	障害者福祉論	<p>本講義は、障害者福祉の理念と施策等を支援や介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である、障害者支援制度を視座に実践的観点から基礎的知識を具体的な事例を取り上げながら概説していく。特に暮らしの中から障害者問題にとどまらず人権問題として主体的に思考し、潜在化している課題について考えていく。</p>	
	ソーシャルワーク論Ⅰ	<p>(ソーシャルワーク論の歴史的展開)本講義は、ソーシャルワークの歴史的な展開過程を通じて、専門職の役割や意義について学び、ソーシャルワークの概念と範囲を理解する。また、ソーシャルワークの形成過程から獲得してきた理念について検討することにより、ソーシャルワーク専門職に求められる基本的な価値・倫理を理解する。特に、これらの価値・倫理に対し、日本社会福祉士会の倫理綱領と行動規範から判断できるようになることを目指す。</p>	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	<p>本講義は、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、マイクロ領域からメゾ領域・マクロ領域まで連続した体系として捉えた「ネットワークの構築」の現実的な課題を学び、ソーシャルワークの各種方法の「関連性」と「機能連携」の理解を深める。</p>	
	ソーシャルワークの基礎	<p>(ソーシャルワーク入門)本講義は、①生活理解の方法、②ソーシャルワークの支援過程とそれに係る知識と技術を包括統一的に理解するため、ソーシャルワーク実践の鍵概念である「生活・支援・過程」についてシステム理論やエコシステム理論、社会的自律性、レジリエンス、ジェネリック・ソーシャルワークの考え方を通じて理解する。特に、課題認識枠組みである実践モデルと介入方法や技術を示す実践アプローチについて理論と事例検討を通じて理解を深める。</p>	
	ソーシャルワークⅠ	<p>(ソーシャルワークの基礎)本講義は、ソーシャルワークの基礎に引き続き、課題認識枠組みである実践モデルと介入方法や技術(記録方法を含む)をふまえた実践アプローチについて理論と事例検討を通じて理解を深める。またグループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメント、スーパービジョン、コンサルテーションの歴史的変遷、意義や目的、原則に加え、それぞれ特徴的な具体的展開過程を事例検討を通じて理解をする。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ソーシャルワークⅡ	(ソーシャルワークの発展)本講義は、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法を修得するため、ソーシャルワークにおける支援関係の形成方法や面接技術、アウトリーチの意義や目的等に加え、社会資源の活用・調整・開発とソーシャルアクションについて理解する。さらに、ネットワーキング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション等の意義や目的、方法、留意点について理解を深める。	
	ソーシャルワークⅢ	(ソーシャルワークの応用)本講義は、これまでに学んだソーシャルワークの価値、知識と技術を踏まえ、ソーシャルワークの総合的かつ包括的な支援の実際を学ぶため、多様化・複雑化した生活課題への対応として、特に①家族が抱える複合的な生活課題と支援の実際、②地域の抱える多機関、地域住民との協働による支援の実際、③災害時や災害時の生活課題と支援の実際を事例検討を通じて理解を深める。	
	権利擁護を支える法制度	ソーシャルワークには、法律的知識が不可欠である。とりわけ社会福祉士がその一翼を担う権利擁護事業や成年後見制度の分野について、利用者の権利を擁護し適切な援助をし得るためには当該制度等についての高度な法律的知識等が必要となる。本講義においては、権利擁護に必要な法律等についての体系的な理解を深め、鋭い人権感覚を養い、これを前提とした事例解決能力を養うことを目的とする。	
	司法福祉論	本講義は、罪を犯した人の社会復帰の制度である更生保護制度の意義と概要し、それぞれのテーマで更生保護における近年の動向と課題を考えていく。とりあげるテーマは刑事司法・少年司法分野で活動する組織や団体及び専門職、関係機関・団体との連携、医療観察制度、少年法改正などである。	
	保健医療	本講義は、社会保障制度改革により、地域包括ケアシステムを柱とする医療・介護サービスの連携強化、社会保障の機能強化により、「病院完結型」の医療から「地域完結型」の医療への転換や、患者の状態に応じた適切な医療の提供が進んでいる。保健医療サービスの構造と変化の基礎的知識を学修するとともに、その中で社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)の業務や役割、多職種との連携の在り方について学ぶ。	
人間 学 科 目 群	人間形成の歴史	日本および海外の教育の歴史から、人間形成のあり方や人間像、子ども観について理解する。歴史的な視座から現代の教育のあり方や課題を相対化するとともに、比較文化の視座から教育の文化的背景を考えていく。教育の歴史に関する基礎的な知識を獲得するなかで、今日の教育のあり方を捉え直す。	
	現代子育て論	人は皆「子ども」として生まれ、親子関係をはじめとする多様な人間関係の中で成長、発達し、やがて自らも子どもを設け、「親」となる者があらわれる。本講義は、人が親になっていく過程に着目し、哺乳類としてのヒトの繁殖戦略という視点から他の生物と比較しつつ、われわれにとって「子育て」の持つ意味について考察する。さらに、乳幼児を育てる親にとって重い課題としてのしかかる「育児ストレス」を取りあげ、その現状や背景的な要因について考え、子育て支援に必要な基礎的な知見を得ることを目指す。	
	青少年論	今日、子どもをめぐる環境変化や社会経済状況の変動によって、学校教育の意義が揺らぎ、子どもの困難が顕在化しつつある。本講義では、こうした今日の状況を踏まえ、学校と青少年との関係、およびその課題への理解を深めていく。まず<教育と社会>の視点から、近代以降の学校教育の基本的な特質(学校知識、学校文化など)について考える。その上で学校や社会が青少年の生活(友人関係、文化、進路、アイデンティティなど)をどのように規定していくのかについて、日本と欧米の社会学理論を参照しながら議論する。	
	現代教育論	教育の基本的概念と教育の思想と歴史という二つのテーマから、現代日本社会において生じている教育的現象や課題を理解する。教育の基本的概念について、どのような営みが「教育」と呼ばれているのか、教育のあるべき姿とはどのような姿かなど、教育に関わる概念、理念、目的、関係性について学んでいく。その上で、教育の思想と歴史をとりあげ、西洋と日本という二つの舞台を焦点に、近代以前の教育と公教育が成立した近代以降の教育のあり方、教育的展開に重要な影響を及ぼした教育思想の概要について学ぶ。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校と社会	本講義では、日本の教育行政・教育制度の歴史を学び、その役割と意義を理解し、現代日本の教育課題に対して、教育行政・教育制度がどのようにその改善に向けて取り組んでいるのか、その現状と課題を考える。そして、現代の「教育問題」とされるテーマの何が「問題」なのか、また、何が「問題」として語られているのかなど、教育社会学の観点から問い直す。具体的には、教育格差、学校安全と学校文化、性・暴力問題、学校と地域社会との連携など、現代社会を生きたる私たちに密接なテーマを取り扱う。学校教育現象の実態とその背景を教育行政学、教育制度論、教育社会学の観点から考察し、現代社会を取り巻く様々な「教育問題」について、多角的かつ客観的に考えられるようになることを目指す。	
	非行問題	本講義では、まず日本の非行の現状と制度を概観し、その背景と問題点を整理する。そして主な社会学の非行研究の議論を紹介しながら、主に同心円地帯、学習、ラベリングなどのキーワードを軸に非行の原因の捉え方を説明する。そこから今日の日本社会における非行問題の主要な論点(「更生のあり方」「少年非行の凶悪化と厳罰化」「非行とメディア」「被害者と加害者」など)を考えていく。	
	生涯学習論	社会教育は学校外の社会での教育を広く総称した言葉であり、類似したものとして生涯学習という言葉が広まっている。本講義では、社会教育、特に地域社会教育と生涯学習、生涯学習の国際的動向についての全体的な理解をし、問題意識を深め、自ら課題探求をすることができる力を養うことを目標とする。具体的には、社会教育と生涯学習の概念、地域における子ども、青年、成人、高齢者、外国人などの社会教育実践、社会教育・生涯学習の法制度、NPOなど市民の自発的な学習活動、社会教育の施設、職員、行政、諸外国における生涯学習や国際成人教育の動向などを取り上げる。	
	身体・スポーツ文化論	現代の「スポーツ」をめぐる問題について知識や理解を深め、スポーツと人間・身体との関係について広い視野と観点から考察することを通して、スポーツと人間との新しいつき合い方を見つけ出す。スポーツは人類の創造的な文化活動の一つと捉えられている。本講義は、われわれの日常生活に根差したものであるスポーツおよびスポーツ文化について、現代社会の特徴を踏まえて学習する。	
	地域社会論	本講義では、我々の生活の場となる地域社会(都市・農村)の成立とその展開について理解することを目的とする。学説(都市社会学・農村社会学)をふまえる一方で、今日の地域社会の現状を捉えながら多様な人々が社会に包摂される仕組み(地域福祉の推進方法など)について検討する。具体的には地域住民組織(民間組織)と行政の役割と責任、住民・市民と専門家との関係性の実際について扱う。尾張地域、隣接する三河地域、さらには東海地方の地域性について理解を深め、自らの生活圏を豊かにしていく手立てを考える。	
	社会学概論	「社会」とは何か。この問いは、社会学の根本的な問いではあるが、漠然とものごとを眺めていては答えは見つからない。私たちが生きる社会のあたりまえをいったん括弧にくくり、冷静に社会的事実を捉えていく視点が必要となる。そうした視点から、わたしが生きることと社会のあり方を架橋して思考する能力=社会学的想像力を身につける。具体的には、社会を知るために、社会学理論、論理的思考からデータを読み解くこと、社会関係としての自己、社会システムと社会機能、地域社会と共同性、再生産論などを取り上げることで、社会学的視点から社会現象の説明ができ、多様な価値観に基づき社会を考察する力を養う。	
	文化人類学	グローバリズムがますます進行する現在、文化的多様性の意義や重要性について理解することがきわめて重要である。本講義では、文化人類学の主要なトピックを学びながら自己中心的な価値観の再検討をめざす。受講者は、異なる文化と出会い、異なる文化をよく知ることによって、自己の文化を知り、ひいては人間とはなにかについての理解を深めることができる。本講義では、そうした目的のために、人類学の歴史と主たる理解の枠組みについて講述する。	
	エスニシティ論	エスニシティとはエスニック集団への帰属性やエスニックな自己意識を指し、エスニック・グループは民族(ネーション)のような自決志向を持たない少数民族として扱われる文化的マイノリティ集団を指すことが多い。この授業では、多文化社会の社会文化の現状について理解を深めることを目標とする。いわゆる「単一民族社会」とされる日本社会もまた事実上多様な社会文化が存在しており、少子化、高齢化が進行する日本社会の近未来の姿についての想像力を高めるために必要な基礎知識を身につけることを目指す。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人間の歴史	アフリカで誕生したヒト（ホモ・サピエンス）はどのように世界に広がり、なぜ地球上のさまざまな環境で生活することができるようになったのか。それを可能にすることができたのは、どのような理由によるのか。そして、ヒトはいつ日本列島にたどり着き、日本列島に定着した最初の人々と現代の日本人とはどのような関係なのか。これらの問いに答えるために、自然人類学の最新の知見に基づくヒトの進化と日本人の起源について学ぶ。すなわち、ホモ属の出現以降、日本人の成立までの人類史・人間史をたどる。さらに化石・DNA・石器など、様々な情報から合理的な推論を導く思考方法や態度を習得する。	
	人間環境論	現在、人間の生産活動がさまざまな形で自然環境に負荷を与え、環境問題を引き起こしている。一方で人間は、動物である以上、他の動植物を食物として消費することでしか生きていくことができない。そこで、人間が周囲の自然環境に負荷を与える存在であるのは、やむを得ないとも考えられる。では人類（人間）は、その誕生以来、自然環境に大きな負荷を与え続けてきたのだろうか。この問いに答えるヒントが、狩猟採集民などの自然に強く依存して生活している人々の暮らしの中に隠されていると考えられる。そこでこの講義では、彼らの生活形態や自然に対する知識・知恵などを紹介し、人間と環境とのかかわり方を再考することを目的とする。	
	地球環境と人間	現在、熱帯林の伐採や地球の温暖化、農薬や家庭排水による水質汚染、廃棄物の増加など、さまざまな段階での環境破壊が問題となっている。こうした環境破壊の元凶は、人間の生産活動の増大と人口増加にあると考えられている。そしてこれらの環境問題の解決に向けて、さまざまな対策が実行されつつある。しかしこうした解決策の中には、さまざまな問題点を抱えているものも見られる。そこでこの講義では、担当教員が直接関わってきた環境問題、その中でもとくに自然環境の保全に関わる問題を取り上げ、その実情と解決策、さらにはその問題点を紹介する。	
	フィールドワーク論	文化人類学の重要な調査方法であるフィールドワークは、長期にわたる現地での生活を通じ社会文化の理解を図ろうとするものであり、参与観察をその主たる方法である。対象社会を客観的に観察しつつも生活者として主体的に社会に参らざるを得ないという、ある意味では矛盾に満ちた方法を理解し、駆使するのがフィールドワークである。本授業では、フィールドワークの方法について、具体的な例をもとに学び、異文化理解を深めることを目指す。	
	社会調査論	本授業では、「社会調査」に関する基礎知識・技法を体系的に解説する。具体的には、「社会調査の歴史」「目的・意義」「主要な調査方法の種類」「データ収集の手順」「分析方法」「調査倫理」について、具体的な事例を取り上げながら概説していく。社会調査に関する基礎知識・技法を体系的に学ぶことを通じて、社会調査の意義や歴史的展開、今日的課題を深く理解すること、自らの関心に沿って実際に調査を設計・実施していく際に必要となる作法や手順が具体的に分かること、身近に実施されている社会調査を読みこなすためのリテラシーを身につける力を養う。	
学科展開科目	生命科学と人間	科学技術の進歩により、私たちはさまざまな食品を安く、安定的に手に入れることが可能になった。一方で、こうした状況が私たちの健康や安全を脅かす可能性も生まれてきた。この講義では、人間が生きていく上で欠かすことができない「食べる」という行為と生命科学の最新技術や社会環境とのかかわりについて学ぶ。具体的には、遺伝子組換え食品、体細胞クローン、ファストフードが抱える問題、BSE問題、食糧自給ならびに食糧輸出国の現状、食品廃棄物といったテーマを取り上げ、こうした問題が私たちの生活とどのような関わりを持っているかを考える。	
	生命倫理学	本講義では、生命倫理学を、医療関係者のためだけの学問としてではなく、「女性として生活していくがゆえに男性よりも困難なジレンマに直面しやすい、妊娠・出産・育児・介護・看取りといった場面でタフに考えられるようになるための学問」と見なしたうえで、生殖補助医療や人工妊娠中絶、脳死臓器移植や終末期医療といった「いのち」の始まりから終わりまでのあいだに横たわる生命倫理の基本的な論点を、単に知識として理解するに留まらず、より納得のいくかたちで受講生が身につけられるようになることを目指す。	
	臨床哲学	臨床哲学とは、現代社会の様々な領域で発生している「苦しみの諸問題」に、哲学的な思考をつなげようとする新たな試みである。古代ギリシアのアテネでソクラテスが人々との対話を通じて「正義や徳、幸福とは何か」を問い続けたのと同様に、臨床哲学も問題の現場に居合わせる人々との対話を通じて、問題の解決への糸口をともに探ろうとする。その意味で、臨床哲学とは単に座学で学ぶものではなく、ひとつの実践的な行為にほかならない。本講義では以上の視座のもと、臨床哲学に関する基本的な論点を押さえつつ、知の方法論について、受講者とともに考える。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	進化心理学	私たち人間の心的活動の遺伝的基盤は、進化の産物、自然淘汰の産物であるという視点から、こころのあり方を考える。そのために、まずは進化や自然淘汰に関する基本的事項を解説する。その上で、血縁淘汰理論その他の人間の社会行動を説明する理論に基づいて、こころの進化について考える。さらに、系統的に人間に最も近いと考えられる類人猿（チンパンジーやゴリラなど）と人間を比較しながら、こころと密接に関係している人間の特徴、例えば言葉や賢さの進化についても併せて考察する。	
	心理学総論	本講義では、科学的な学問としての心理学とは何かについて解説し、心理学が人のこころをどのように把握しようとしているのか、またどのような方法で人のこころに接近しようとしているのかについて日常的な例を取り上げながら理解する。心理学が対象とする領域が非常に幅広いことをふまえ、知覚、行動、認知、教育、社会、発達、臨床など諸分野の概論的知識について取り上げ、基本的知識を身につける。また、心理学の研究手法や心理学的なものの考え方を通して、身近なものごとについて考える力を養う。	
	乳幼児・児童心理学	乳幼児期・児童期の発達について、基本的な知識を得て、子どもの発達のな見方について理解する。まずは発達理論の概要を扱った上で原始反射、知覚、視点取得、愛着、自己認知と自己意識など基本的な観点からの発達を学ぶ。さらに子どもの社会性の発達に焦点を当て、道徳性、向社会的行動、セルフ・コントロール、ソーシャルスキル、仲間関係についても学び、子どもが出生後どのように社会性を獲得・発達させていくかという理解や態度を養う。	
	遊びの心理学	本講義では「遊び」という活動の持つ特徴について検討を加え、子どもの発達における意義や役割について理解を深める。また、様々な遊び理論を取りあげ、「遊び」とは何かについて考えるとともに、認知機能や社会性の発達と「遊び」の関係についても理解する。さらに、おとなの「遊び」と子どもの「遊び」を比較検討することで、「遊び」の持つ多様な側面について考察する。	
	乳幼児保育論	保育とは乳幼児を保護育成することを意味しており、幼児教育とはほぼ同義で使われている。わが国における小学校就学前の保育は、学校としての「幼稚園」、児童福祉施設としての「保育所」、両者の機能を兼ね備えた「認定こども園」の3つの施設において行われている。本講義では、これらの保育施設における保育の仕組みや教育の理念、方法について検討し、乳幼児期の発達に及ぼす影響や効果について考察する。各施設で行われている保育を比較考察することで、それぞれの施設の持つ特徴や違いを明らかにし、乳幼児を保護し教育することの意義について理解を深める。	
	子どもの認知・行動	乳幼児期、児童期、青年期における認知発達や行動について扱う。特に乳幼児期の認知発達については、運動、記憶とメタ認知、知能、表象と思考、概念、言語などを取り上げ、人がこのような認知機能を獲得・発達させていくプロセスについての理解を促す。さらに児童期・青年期においては、身体とジェンダー、自己、学校と学習、障害と発達障害、社会への適応などを扱い、人が自己をどのように知覚し発達させていくかを考える態度を養う。	
	親子関係の心理学	人は皆「子ども」として生まれ、親子関係をはじめとする多様な人間関係の中で成長、発達し、やがて自らも子どもを設け、「親」となる者があらわれる。本講義は、人間の発達にとって重要な時期である乳児期から幼児期にかけての親子関係について検討する。子育てで戦略の一つとしての愛着を取りあげ、愛着システムの意義や成立過程、ソーシャルネットワーク理論に触れつつ、内的作業モデルの果たす役割についても理解を深める。後半では、親にとっての課題である育児ストレスを取りあげ、その現状や背景的な要因について考え、子育て支援に必要な基礎的知見を得ることを目指す。	
	発達心理学	胎児・乳児・幼児期及び児童期の子どもの定型発達についてさらに青年期以降の発達についての理解を深めることを目的とする。各発達段階における人間の発達の特性を理解し、子どもに関わるスキルの基礎を身につけ、将来、次世代を育むことにつながる力の形成を目指す。誕生から死に至るまでの生涯発達について胎児期・乳幼児期・児童期を中心に子どもの定型(健常)発達及び青年期、成人期、高齢者の発達の概観及び非定型発達について講義する。受精から始まる人間発達について各発達時期の概観、及び各領域別(例、身体発達、認知発達、対人関係の発達など)の子どもの発達について知識を得、理解を深めることをめざす。	
	青年心理学	本講義では、青年期という概念が誕生した歴史的経緯を学び、産業の発展、平均寿命の長期化、教育機会の浸透と教育の長期化という観点から、青年期概念を捉え直す。また、思春期・青年期の年齢段階に応じた心理的・認知的・身体的な変化、現代社会における学校段階の特徴と学校が思春期・青年期の子どもにもたらす心理社会的な影響、発達に応じた対人関係(親子・友人・異性)の特徴、職業選択に関する心理・社会的課題について学ぶとともに、現代社会における思春期・青年期に関する諸問題について、自分自身の問題として捉え、発見的に考察する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	成人心理学	急速なスピードで超高齢化が進む日本では、成人期を終えた後に、多くの人が長い老年期を過ごす場合が多い。望ましい老年期を送るためにも、成人期から老年期の発達や課題について理解することが必要である。本講義では、成人期以降の心理的特徴や、心理的課題や問題、心理的介入について学ぶ。また、学生にとって成人期以降の年代はイメージを持ちづらいため、授業内容に関連したVTRを適宜使用する。それにより、具体的なイメージを持って考えることができ、将来の自分自身、自身の親・父母とも関連づけながら、成人期以降の心理的発達・課題を理解し、心理的援助を考える。	
	人体の構造と機能及び疾病	本講義は、公認心理士試験・社会福祉士国家試験を受験するために必要な科目である。人体の構造と機能、及び身体疾患の基礎を学び、身体疾患を抱えた人が自分の病気について抱く悩みをきちんと理解するために、また医療現場で働く他職種と専門家の一人として一緒に仕事をするために必要だと思われる、身体疾患に関する基礎的な知識と判断力を身につけることを授業の目的とする。具体的には、脳、心臓、肺、腎臓など様々な臓器の構造・機能およびその異常(=身体疾患すべて)が含まれ、覚えるべき知識は多いため、できるだけ整理して説明する。	
	健康・医療心理学	本講義では、健康心理学・医療心理学の基礎を学び、会社、病院、学校などの組織において、構成員の健康を増進したり、医学的問題を抱えた構成員を援助したりするための基礎的な知識と判断力を身につけることを目的としている。そのため、人の心の健康と疾病・障害に関連する分野を扱う。特にストレスと心身の疾病との関係、医療現場や保健活動の現場における心理社会的課題及び必要な支援、災害時等に必要心理に関する支援について焦点を当て、理解に役立つと思われるような症例などを含めつつ説明していく。	
	教育・学校心理学	学校現場では、不登校やいじめ、発達障がいなど様々な困難をもつ児童・生徒に対する様々な支援が行われている。本講義を通して、教育現場において生じる問題及びその背景を把握し、教育現場における心理社会的課題及びその必要な支援を理解する力を養う。また、障害のある児童及び生徒の心身の発達を踏まえた特別支援について、基礎的事項を把握する力や、学校と地域連携の重要性について理解し、教育臨床の基本的態度を身につける。本講義は、指導・相談業務におけるロールプレイ、ケース会議、関係機関との連携に関するシミュレーションなどの実践的な内容も含まれる。	
	福祉心理学	福祉心理学は社会福祉の対象となる全ての人々とその支援者が、健康的で文化的な生活が送れていると実感できるように、心理学的な手法を用いて支援していくことを扱う学問である。本講義では、福祉とは何かというところから始め、各発達段階を切り口とした、社会的課題や心理的支援の在り方を考え、また別の切り口として、主要な福祉領域を概観し、福祉現場において生じる問題及びその背景、そして、心理社会的課題及び必要な心理的支援について考える。また、関連する法律、制度、機関についても取り上げ、そこで機能する職種とその役割についても理解を深める。	
	障害者・障害児心理学	障害の特徴を理解し、子どものニーズを把握することは心理臨床や学校教育、福祉の現場における重要な課題である。障害の特徴を概観し、理解を深めることを目標とする。障害とはどのように理解されるかを学習した上で、基本的な障害における心理的特徴についての学習を基礎として、最近の研究の課題・動向や話題について理解を深める。また、障害児(者)のニーズはどのようなものであるか、事例などを手がかりに課題を整理し、現場において要請される、アセスメントによる心理的理解や、アセスメントにもとづいた個別的教育支援計画の作成をどのように行うのかについて理解を図る。	
	知覚・認知心理学	我々の日常生活における様々な行動は、外界からの情報を処理することによって可能となっている。この授業では、我々が外界からの情報をいかに処理しているのかという観点から心の仕組みを捉え、概説する。授業の前半では、知覚の仕組みについて視覚情報処理を中心に取り上げる。授業の後半では、注意・記憶・思考などの基本的な認知の仕組みを取り上げる。これらを通して、日常生活におけるこころの働きを情報処理という観点から理解することを目指す。	
	日常認知の心理学	日常生活の様々な行動の背景には、それをもたらすこころが存在する。この授業では、日常生活の行動の源となる様々な認知について取り上げ、解説する。中でも、感情や好き嫌いといった評価に関わるこころや、顔・表情などの対人認知やコミュニケーションに関わるこころについて、最新の研究知見を交えながら説明する。これらを通して、何気ない日常の中に存在するこころに目を向ける力を身につけるとともに、それらを検討・検証する力を身につけることを目指す。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学習・言語心理学	本講義では、学習の基本過程について学ぶ。学習とは、経験を通じて行動を変化させていくこと全般を指すものである。人は学習能力に優れた生き物であり、生活内における多くの行動は学習によって獲得されたものである。授業では、条件づけや技能学習、社会的学習などの行動変容過程について概説するとともに、それらの行動をもたらす要因を説明するために動機づけについても概説する。さらに、人における重要な能力である言語を取り上げ、その習得過程や言語理解およびその障害についても概説する。これを通して、日常生活における学びについて理解を深めることを目指す。	
	産業・組織心理学	働く場においては、組織行動や職場の人間関係、個人のキャリアやストレスなど、個人と組織をめぐる多様な事象と問題が起こる。本講義では、働く場の人の行動や心理に関する知識を取得した上で、問題に対して主体的に思考・判断する力を養う。具体的には、組織の管理・運営・法令、キャリア発達、モチベーションとコミットメント、コミュニケーションとチームワーク、職業性ストレスとメンタルヘルス、安全と作業衛生等について学ぶ。さらに産業・組織心理臨床の枠組みを学んだ上で、心の健康づくり、ストレスチェック、組織開発など、心理的支援の実践的な知識と態度も養う。	
	社会・集団・家族心理学A (社会・集団心理学)	本講義では、社会心理学 (集団心理学を含む) の基本概念や基礎知識を知り、理解することを通して、社会心理学的視点・志向性を身につけることを目的とする。社会心理学は個人の態度・行動を性格で説明するのではなく、周囲の状況によっていかに変化するかを問題にする。具体的には、個人の日常の社会行動 (生活空間、態度、認知的不協和、行動経済学、社会的促進) から、対人場面での反応 (距離、動作、表情、視線)、そして3者以上の集団行動 (集団の構造、同調、社会的手抜き・集団思考、パニック・流言) へと視点を広げ、知識・理解の獲得とともに態度・志向性の形成を目指す。	
	社会・集団・家族心理学B (家族心理学)	本講義では、家族関係において生じる問題の社会的・文化的要因および心理学的理解と援助を扱う。具体的には、家族関係において生じるさまざまな問題 (児童虐待、家庭内暴力、非行、犯罪など) について、家族関係の病理という視点から考察し、臨床心理学的理解を深める。そのような事例にであった時に適切に理解し対応できるようになることを目的とする。また人が最初に経験するのは家族との人間関係であるから、それを理解することにより、女性の社会的自立・職業的自立にとって重要な人間関係形成能力を養う。さらに子育ての心理や支援について学ぶことで、職業と家庭生活のバランスについての理解を深め、将来設計に役立てる。	
	対人関係の心理学	社会心理学の基本問題として、1対1の対人関係における基本現象と実際の側面に着目する。まず対人関係全般について、進化的起源や発達の起源など既説を紹介する。その上で、他者への「心理的距離」の動的メカニズムとその実際場面での課題を取り上げる。また対人関係の調整行動としての「言語コミュニケーション」について、具体的な例を通して、分析的に探究する。このような学びにより、対人関係における心理を分析的に解釈する志向性を養うことを目指す。	
関連科目	情報科学と人間A	大学生活はもちろん、就職活動や社会人になってからもプレゼンテーションの力は必要とされるスキルの一つである。本授業ではプレゼンテーション作成ソフトのPowerPointを使い、基本操作の習得および情報収集の方法と活用、論理的な流れのスライド資料の作成法、口頭発表の基本について学ぶ。具体的には、PowerPointの基本操作、PowerPointを利用した論理的な流れのスライド資料の作成、作成したスライド資料を用いたプレゼンテーション技法の習得をめざす。	
	情報科学と人間B	コンピュータおよびインターネットの利用が当たり前となっている今日、これらの基礎技術を実社会の中でどのように役立てていくかを考え、実践することが重要である。本授業では、インターネットを基盤とした情報発信の手法について学び、コンテンツ管理システムの基礎知識を身につける。具体的には、Wikiのシステムを活用したウェブページの制作を通じて、コミュニケーションメディアの情報発信のあり方について考え、情報ネットワーク技術への理解を深める。	
	日本史A	中学・高校で日本史を教えるために、日本史の基本文献を知るとともに、基本的な調べ方を身につけることを目標とする。中学・高校の日本史の教科書で基本事項として取り上げられている事柄は、歴史学者たちの膨大な研究成果が要約されている。本講義では、教科書で歴史の大きな流れを理解する上で重要と考えられている事柄が日本史の基本文献 (通史) の中でどのように位置づけられ解説されているのかを検討していく。	
	日本史B	本講義では、歴史学習で大切とされる、時代を通して見る (通貫的にみる) という視点を身に付けていく。古代から現代まで時代を通して見ることで、他の時代とは異なるその時代の特徴が浮き出てくることもある。こうした通貫的な視点で歴史を見るとともに、なぜそのような特徴が表れたのか、その原因や理由についても理解を深めていくことを目標とする。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	外国史A	本講義では、西洋前近代史をテーマに他の地域と対比させながら、西洋の各地域の文化的特徴をおさえるとともに、古代・中世といった時代区分について明らかにし、西ヨーロッパを中心に西洋の古代・中世・近世の歴史について解説する。西洋前近代史の普遍性と特殊性について理解を深め、それらを説明できる力を身につける。	
	外国史B	本講義では、現在の世界の姿に大きな影響を与えた西ヨーロッパ、中国をはじめとする東アジア、そして西アジア地域の歴史について通史的に概説する。そのうえで、これらの地域の歴史や社会のあり方を比較検討し、現代に通ずる問題について考察し、西ヨーロッパと東・西アジアを主対象とするユーラシア大陸の歴史について、その特徴や相違点を比較し、通史的に説明できるよう理解を深める。	
	地理学概論	本講義では、世界の気候環境の多様性が生まれるメカニズムについて詳述した上で、各地域において見られる経済や民族、文化など人々の生活と環境の関わりについて、地理学的視点から解説する。また人間活動と自然のバランスが崩れることで発生する環境問題について、現状と原因、将来予測などに触れながら解説する。世界の生活環境の違いや環境問題を人文・自然の両地理学的視点から理解し、世界各地の気候環境の分布とその理解ならびに、そこで見られる民族や文化といった人々の暮らし、経済と環境問題の関わりについての理解を深める。	
	地誌	地誌学は、地域の自然環境や社会・経済・文化環境の独自性に焦点をあて、地域性を解明し、地球上には様々な地域が存在することを理解する地理学の一分野である。グローバル化が進み、地域特有の文化が変容し、地域性の画一化が見られる。また、インターネットの発達で現在では誰でも手軽に多くの情報を得られるようになっているが、この授業では、地域認識の課題、地誌の本質、地誌の方法について講義するとともに、日本を含めた世界の各地域の地誌を検討することで、グローバル化時代の地域を理解する能力を身につけることを目指す。	
	法律学 (国際法を含む。)	本講義は「法と人権」とテーマとする。現在、様々な場面で「人権」が問われている。講義では特に、性別をめぐって引き起こされる「人権」問題を取り上げる。具体的には、性自認や性的指向、性別役割分業などといったジェンダーに深く関する様々な問題とそれらに関連する法律について基本的な知識を身につける。その上で、既存の法律の内容を理解し、その限界や課題を検討する。また、日本の状況を知るとともに、諸外国の事例や人権に関する国際条約、国際法なども取り上げ、「法と人権」の観点から国際法を学ぶ。	
	教職論	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職への意識、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。学級づくりや授業づくりでは基本的な進め方、保護者や同僚教師とのかかわりでは関係づくりを中心に具体的な事例を通して学び、実践的な資質・力量を身に付ける。さらに、教師として対応に苦慮する不登校やいじめ、教科担任としての役割についても理解を深める。	
	生徒指導と進路指導	多様化した日本の職業社会を理解し、大学卒業後の生き方について考えていく。まずキャリアについて基本的な定義を議論し、教員のキャリアのあり方について紹介した上で、受講生自身のキャリアを発表してもらおう。そして近年の働き方改革や海外の若者の働き方などに関するテーマをとりあげ、生徒指導と進路指導の方法を身につけていく。	
	カリキュラム論	本講義では、教育に関する様々な事柄の中から特にカリキュラムについて取り上げ、その意義や編成の方法、及びそれに伴う教育の方法などについて考えていく。具体的には、はじめにカリキュラムの内容、理論、編成方法、類型などの基礎的・理論的な理解を深めることを目指す。次に、実際の学校現場を想定しカリキュラム開発・編成を行うことで、実践的理解力や批判的考察力を身につけることを目指す。	
	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、話法、板書、ノート指導、ICT、指導案の作成など、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また授業実践の紹介を通じて、具体的な教育のあり方を考えていく。	
	教育相談	学校における教育相談は、幼児、児童および生徒個人の健全な人間関係や人間的成長を促し、個別の理解を深めていくための教育活動である。本講義では、その基礎となるスクールカウンセリングの基礎的な知識、理論や技能の基礎を身につけることを目的とする。そのため学童期・思春期の人の成長について、発達段階、パーソナリティ、精神医学的視点から学び、教育現場で児童生徒における問題への対応について考えていく。そして、教育現場で子ども・保護者・関係者への対応ができるよう、教育相談の基本となるカウンセリング技法の基礎を学習するとともに、保護者への支援、支援のための連携・協働、学校危機管理についての理解を進める。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	発達と学習	本講義では、幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解することを目的とする。そのため、生涯発達の観点から乳幼児期から青年期の各時期における運動の発達、学習・言語の発達、知性・認知の発達、社会性の発達について、その具体的な内容を学習する。さらに学習の理論、動機づけ、知能に関する基礎的理論を学ぶとともに、それらの教育への応用、教育評価、発達障害への教育支援、個性と教育など、教育現場における発達と学習の教育と支援について考える。	
	博物館概論	本講義は、博物館とは一体どのような存在なのか、どのような役割をもち、何をするとところなのかという博物館の基本的な事項について考え理解することで、博物館内外からの様々な視点から博物館の活用について考えられるようになることを目指している。また、学芸員資格取得科目としては、学芸員に必要な基礎的な知識と博物館とその多岐にわたる活動に関する基礎的な知識について学修する。	
	博物館経営論	本講義は、博物館を巡る行財政、災害などの危機管理、博物館学芸員の使命や行動規範、そして地域社会での連携活動、研究機関や教育機関との交流の重要性など、博物館の使命、財務、施設、評価等、博物館経営の様々な側面を学び、博物館経営に関わる諸要素を学修するとともに、博物館経営に関する自分の意見をもつことを目的とする。	
	博物館資料論	本講義は、精神文化・物質文明に関わるもの、自然科学の対象となるものなど多岐にわたる博物館資料の意義や種類・性質、社会的位置づけ、文化財行政等への理解とともに収集方法、保存、研究、活用方法等について学び、特に、資料をまつ学芸員の役割と責任への学修を通じた博物館の役割について考える。また、自然災害や人的加害から文化財・文化遺産を守り後世に伝えていく方法と技術の一端も学ぶ。	
	博物館資料保存論	自然とヒトの生み出した遺産とその保存をテーマに、世界的な基準である「世界遺産」登録基準、日本の法的根拠である文化財保護法などをもとに、遺産として保存するためには、どのような方法があるのか具体的事例を交えて理解を促進する。特に、保存のための中心的機能を有する博物館の専門職員には、どのような能力が求められ、それを身につけるにはどうすればいいのか、学生自身が理解を深めていくことを目標にする。	
	博物館展示論	保存した遺産の価値を社会に発信する手段としての博物館展示をテーマに、博物館の収集・保存といった「基礎機能」、資料の価値を引き出す「研究機能」、その価値を広く発信する「活用機能」、という三つの主要な機能の相互に密接な関連を理解し、特に博物館の専門職員には、それらの機能を具体化する能力をバランスよく身につける。特に社会との接点となる「活用機能」の展示と、近年の情報機器開発のもと、新博物館や一定年数を経過した博物館のリニューアルなどに導入されている「流行」との両者を適切に配分して授業を構成する。	
	博物館教育論	博物館とは国際博物館会議(ICOM)にて定義されるように、資料の「収集」「保存」「研究」「展示」を行うとともに、教育的配慮のもと、一般公衆への知識の普及・慰楽などに供する機能を備える施設である。本講義では、実際に活動を行っている博物館の教育活動の現状を確認しつつ、その活動の課題を浮き彫りにし、教育的役割を中心に据えた博物館の在り方について考察するものである。	
	博物館情報・メディア論	現状の博物館・美術館とそれをとりまく情報環境への理解、デジタル・メディア時代の「学び」におけるメディアの在り方の把握、情報とメディアを利活用できる基礎能力を養うために、過去の情報技術、視聴覚メディアの技術的發展を概観する。その上で、現在の視聴覚教育の可能性について考察する。また、博物館・美術館活動における情報、メディアとICTの活用を知り、学校や博物館が置かれている状況について理解を深める。今後の情報技術・教育メディアの可能性について考察する。	
	海外演習A	この授業は夏季休暇中に海外研修に参加することを前提としている。海外研修を通じて、多文化社会について理解を深め、その経験を自分で整理するとともに的確に伝えられるようにすることを目指す。授業は現地プログラムを前提としているので、その内容は多様であるが、基本的には、英語力のブラッシュアップをメインにしたものと、または英語力のブラッシュアップとインターンシップ(ボランティア活動)を組み合わせたものの2種類がある。履修者は現地での授業や活動の成果を随時報告する必要がある。	
	海外演習B	この授業は春季休暇中に海外研修に参加することを前提としている。海外研修を通じて、多文化社会について理解を深め、その経験を自分で整理するとともに的確に伝えられるようにすることを目指す。授業は現地プログラムを前提としているので、その内容は多様であるが、基本的には、英語力のブラッシュアップをメインにしたものと、または英語力のブラッシュアップとインターンシップ(ボランティア活動)を組み合わせたものの2種類がある。履修者は現地での授業や活動の成果を随時報告する必要がある。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習 実習 科目	ケースメソッド	ケースメソッドとは、受講生が判断や対処を求められる事例を教材にし、グループで討議しながら意思決定や問題解決の実践力を磨くことを目的とした学習法である。本授業では、人間関係におけるさまざまな課題を設定し、学生の問題解決能力の向上を目指す。具体的には、体験者の話を聞いて議論する授業、フィールドワークや調査法・実験法等によって課題を発見し解決する授業、人間関係トレーニングや非言語コミュニケーション、心理療法のワークを通して人間関係の構築や支援について考える授業、施設での体験実習によって現場の課題を考える授業などである。	
	演習	人間関係に関わる学術図書や学術論文を複数講読し、学問テーマに関する先端的な知見を理解すること、研究の計画・方法・分析・考察など研究の方法論を習得すること、さらに研究を批判的に検討する観点を養うことを目的とする。またレポート作成やそれに基づく議論を実践することによって、論理的な思考方法やその提示方法、他者との議論における考察の深化についても体験的に学ぶ。担当者の専門によって、社会・地域・組織・学校・家族等における人間関係を学問テーマとし、教育学・社会学・心理学・人類学・哲学・身体学・言語学等の学問分野の研究を扱う。	
	卒論事前ゼミ	本ゼミナールは、卒業研究の課題を見出し、卒業研究の仮テーマを設定する。そのために、受講生各自の学修の振り返りと研究テーマに関する先行研究の整理と検討を行いながら、具体的な課題を設定する作業を通して研究の目的を明確化する。各自の課題探究に必要な研究方法とそのまとめ方を身につけ、口頭発表やディスカッションを行い、研究計画を作成することを目指す。	
	卒業論文	受講生各自の4年間の学修の集大成として、卒業論文を作成する。各自が関心を持つテーマについて、先行研究をレビューして独自の観点から論理的に主張・考察をまとめる文献研究や、研究課題を設定した上でデータの収集と分析・考察を行う実証的研究などを行う。受講生は研究倫理に基づき適切な研究計画を立てた上で研究を遂行し、12,000字以上の卒業論文にまとめる。さらに論文提出後にはそれを要約し、卒論発表会でプレゼンテーションするとともに質疑応答による議論を体験し、成果を洗練させるプロセスも学修する。一連の取り組みによって、学生の主体的な学修成果を実現することを目指す。	